

第4章 長宮遺跡第44地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ(現在は排水溝として利用)、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構

群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2014年12月現在49ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年4月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

調査区は住宅地や道路を挟んで東西の2ヶ所に分かれる。

試掘調査は2013年5月14日から6月24日まで行った。2ヶ所の調査区域で幅約1.5mのトレンチ15本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。縄文時代早期の炉穴や前期の住居跡、中



第28図 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第14表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮2-1-23	1977. 10. 3～30	1,000	保育園	溝3、土坑48、柱穴	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
2次	長宮2-1-27	1978. 4. 25～5. 15	235	民間宅地	溝2、土坑1、石臼、板碑、砥石、古銭、陶器、馬骨	埋(Ⅰ)
3次	長宮2-5-11	1978. 7. 24～30	111	民間宅地	土坑1	埋(Ⅰ)
4次	長宮1-1-14	1978. 10. 6～9	37		住居跡1、土師器、須恵器、鉄製品	埋(Ⅰ)
5次	長宮2-5-2	1979. 4. 16～20	110		縄文前期住居跡1、縄文土器片	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
6次	中丸1-4-13	1980. 4. 21～30	515		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
7次	中丸1-3-6	1980. 5. 13～31	869		溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
8次	長宮2-1-10～13	1980. 9. 8～10. 8	1,900	宅地造成	中世溝、井戸、土坑、板碑、砥石、陶磁器、古銭、馬歯	遺調1集
9次	長宮1-4-10	1980. 9. 21～30	200		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
10次	長宮2-3-4	1980. 12. 5～15	485		溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭・陶器	埋(Ⅲ)
11次	長宮2-2-10	1980. 12. 16～22	117		溝、縄文土器片、中世以降陶器	埋(Ⅲ)
12次	長宮1-2-7	1981. 5. 26～30	160	個人住宅	溝1、中世陶器片、縄文土器片	埋(Ⅳ)
13次	長宮1-2-13	1981. 6. 3～11	251	個人住宅	遺構なし、中世陶器片	埋(Ⅳ)
82試	長宮1-2-12		1,000	歴史民俗資料館	溝2	57年教要
14次	長宮2-2-1	1985. 9. 24～27	156	個人住宅	溝1	埋(Ⅶ)
15次	西原2-5-8	1985. 10. 22～31	116	個人住宅	なし	埋(Ⅶ)
85試	長宮1-2-11	(1986. 3. 6～15)	400	学童保育	溝2	60年教要
16次	長宮1-4-7	1986. 6. 9～17	173	個人住宅	縄文土器片	埋(Ⅸ)
17次	中丸1-3-11	1987. 6. 19～30	504	個人住宅	縄文前期土器散布	埋(Ⅹ)
88試	長宮1-3-8	(1988. 9. 13～16)	657	住宅建設	なし	埋(11)
89試(1)	長宮1-3-9	(1989. 9. 20～30)	448	住宅建設	なし	埋(12)
89試(2)	長宮2-5-19	(1989. 11. 14～24)	1,778	住宅建設	なし	埋(12)
90試	長宮2-5-4	(1990. 11. 27～30)	919	共同住宅	なし	埋(13)
18次	長宮2-5-3	1992. 10. 6～12. 2	925	共同住宅	縄文住居跡1、中近世土坑2、溝5	埋(15)
19次	長宮1-2-21,35	1993. 12. 17～1994. 1. 22	467	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(15)
93試	長宮2-4-2の一部	(1994. 2. 10～28)	1,502	共同住宅	溝2、土坑1、中世後期板碑	5年教要
94試	西原2-5-1	(1994. 7. 25～8. 2)	314	心身障害者デイケア施設	断面函形溝1	埋(17)
20次	長宮2-1-22の一部	1995. 4. 10～5. 9	170	個人住宅	中近世溝4	埋(18)
21次	長宮2-1-63,65	(1995. 6. 19～8. 8)	361	個人住宅	中近世溝1、井戸7	埋(18)
95試(1)	長宮2-1-20外	(1995. 8. 9～28)	421	市道敷設	なし	埋(18)
95試(2)	上ノ原3-1-6外4筆	(1995. 10. 4～12)	1,528	共同住宅	溝1	埋(18)
95試(3)	長宮2-1-60	(1995. 10. 23～25)	269	駐車場	中近世溝1、井戸4	埋(18)
22次	長宮2-1-60	1995. 10. 27～11. 9	269	駐車場	中近世井戸跡4、溝1、陶器、板碑破片、かわらけ、	遺調6集
95試(4)	長宮1-3-13	(1995. 12. 12～25)	120	駐車場	なし	埋(18)
96試(1)	長宮1-2-16	(1996. 7. 12～18)	349	宅地造成	なし	埋(19)
96試(2)	中丸2-2-9他3筆	(1996. 11. 7)	568	宅地造成	なし	埋(19)
96試(3)	長宮1-2-4	(1997. 1. 14～21)	794	共同住宅	古墳～奈良住居跡1	埋(19)
96試(4)	長宮2-2-4	(1997. 2. 24)	205	社務所改築	なし	8年教要
97試(1)	長宮2-3-3	(1997. 4. 8～9)	611	農地天地返し	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	長宮2-1-2	(1997. 4. 9～11)	289	個人住宅	土坑1(時期不明)	埋(20)
97試(3)	長宮1-2-36,37	(1997. 6. 4～5)	423	駐車場	溝1	埋(20)
97試(4)	西原2-5-6	(1997. 8. 15～21)	753	駐車場	中近世堅穴状遺構1	埋(20)
98試	中丸1-2-4	(1998. 11. 24～27)	1,014	宅地造成	なし	埋(21)
99試	中丸1-3-12	(1999. 11. 8～16)	98	個人住宅	溝1、縄文前期集石2	埋(22)
00試(1)	中丸1-4-7	(2000. 7. 4～11)	932	宅地造成(土地分譲)	縄文前期(関山期)住居跡5、土坑13	埋(23)
00試(2)	西原2-4-8,10	(2000. 7. 17～24)	1,081	宅地造成(土地分譲)	なし	埋(23)
00試(3)	長宮2-1-17	(2000. 8. 21～23)	687	共同住宅	なし	埋(23)
00試(4)	長宮1-3-3A,4A	(2001. 1. 17～23)	1,119	宅地造成(土地分譲)	近世以降土坑1	埋(23)
23次	中丸1-4-7	2001. 7. 18～26	137	個人住宅	土坑6(縄文早期後葉1、前期4、近世以降1)	埋(24)
01試(1)	長宮2-1-3	(2001. 4. 20～24)	330	個人住宅	なし	埋(24)
01試(2)	西原2-4-7	(2001. 5. 25)	634	共同住宅	なし	埋(24)
01試(3)	中丸1-1-3	(2001. 8. 7～24)	513	共同住宅	道路状遺構1、縄文前期土坑1	埋(24)
01試(4)	長宮2-8-6	(2001. 11. 6)	130	個人住宅	なし	13年教要
02試(1)	長宮1-3-2～5	(2002. 6. 5～11)	3,536	宅地造成(土地分譲)	住居跡2【盛土保存】	埋(25)
02試(2)	長宮1-4-3	(2002. 6. 20～7. 2)	575	確認調査	住居跡2、溝2	埋(25)
02試(3)	中丸1-1-5	(2002. 9. 3～11)	622	宅地造成(土地分譲)	道路状遺構1	埋(25)
02試(4)	長宮1-3-31	(2002. 9. 20～25)	362	地区計画道路	溝1	埋(25)
24次	長宮1-4-3	2003. 1. 30～2. 14	72	個人住宅	住居跡2	14年教要
02試(5)	長宮2-5-6	(2003. 3. 10～12)	827	宅地造成	住居跡1【盛土保存】	14年教要

地点	所 在 地	調査期間()は試掘調査	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
03試(1)	長宮2-5-30,32	(2003.9.16)	197	区画道路	なし	埋(26)
03試(2)	長宮2-4-7	(2003.12.16～18)	1,123	宅地造成	井戸跡1	埋(26)
04試(1)	中丸1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	なし	埋(27)
04試(2)	長宮1-2-15	(2004.12.7～9)	466	農地改良	なし	埋(27)
25	中丸1-4-8	(2007.2.15～16)	1,161	個人住宅	ビット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30～31)	175	個人住宅	溝。保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31～6.5) 2007.6.6～22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ビット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20～12.3) 12.4～5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ビット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28～11.2) 11.4～12.8	1362.1	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ビット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15～25) 2011.2.4～26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ビット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19～5.31)	534	分譲住宅	堀跡1	未報告
34	中丸2-2-246	(2011.6.27～7.16) 2011.11.2～12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9～27)	1157.88	共同住宅	縄文時代焼土跡1	未報告
36	長宮2-4-3	(2011.10.4～17) 10.21～11.14	981	個人住宅	中近世井戸15、土坑5、溝15、ビット多数、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	未報告
38	長宮1-4-27	(2011.11.24～25)	101	分譲住宅	なし	未報告
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	未報告
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告
41	福岡字丸橋988-1～3、989-2～5、990-3	(2012.4.17～5.31) 6.11～7.23	1,152.62	分譲住宅	炉穴1、焼土面1、落とし穴1、土坑12、ビット33、溝1、縄文前期土器片・石器、近世陶磁器等	市内12
42	仲丸1-2-24	(2012.7.31)	101.00	分譲住宅	なし	未報告
43	長宮2-1-72	(2013.2.27～3.1)	231.00	個人住宅	中世～近世溝2・土坑3・ビット17	未報告
44	中丸1-3-3、4-5	(2013.5.14～6.24) 6.25～7.30	1,329.00	分譲住宅	縄文前期住居2軒、炉穴6、落とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ビット4、溝9	市内13

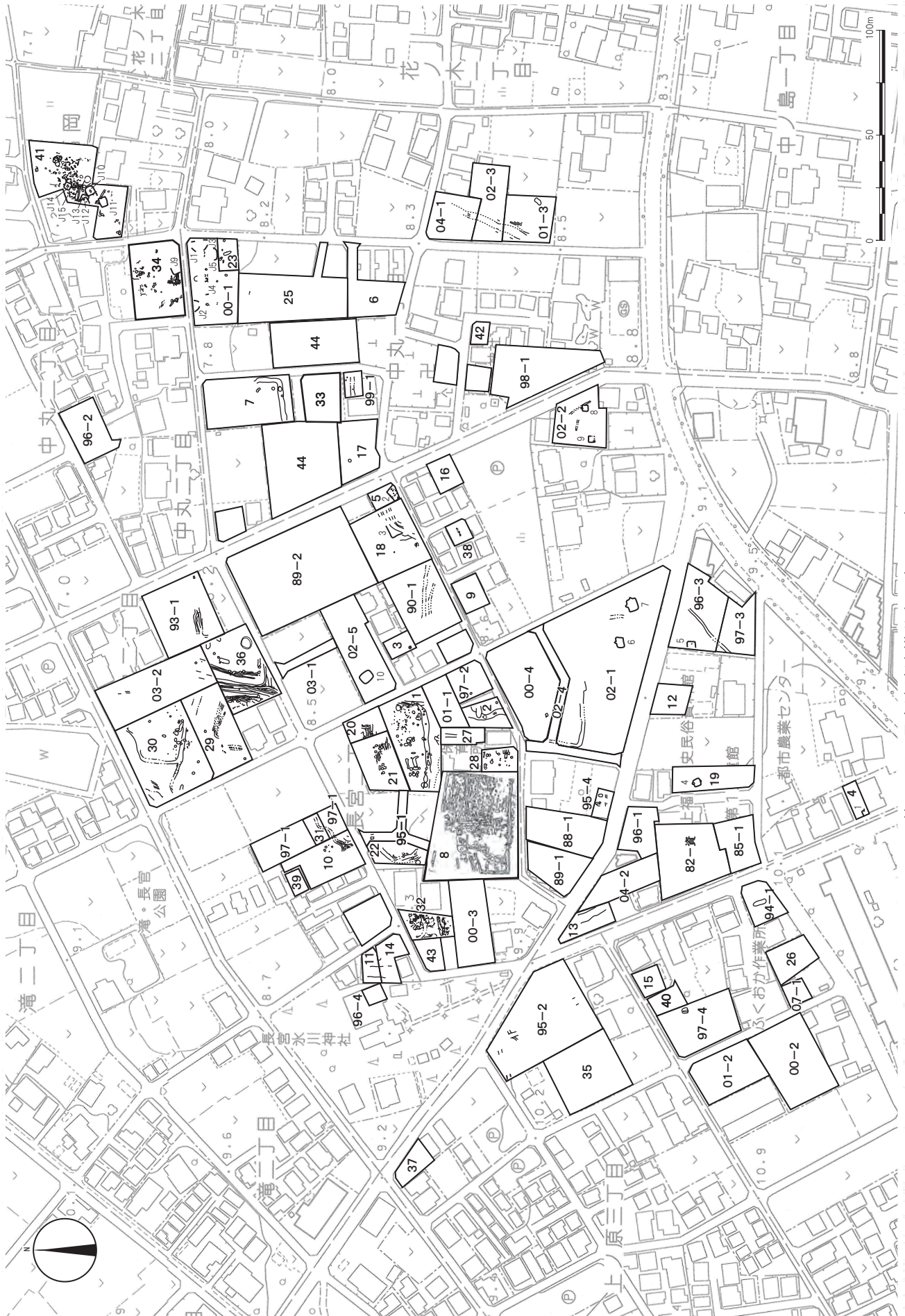
※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、 市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第 15 表 長宮遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形()は推定	規模	炉	炉	周溝	主軸方位	時期	備 考	文 献
						カマド K	規模 cm					
J1	1979	5 地点 2 号住居		長梯形	600 ×	炉	×	○		関山期		埋蔵文化財の調査Ⅱ・Ⅳ
J2	1992	18 地点 3 号住居			×		×			関山期		埋蔵文化財の調査 15
J3	2000	00 年試掘(1)1号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J4	2000	00 年試掘(1)2号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J5	2000	00 年試掘(1)3号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J6	2000	00 年試掘(1)4号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J7	2000	00 年試掘(1)5号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J8	2003	02 年試掘(5)	プラン		×		×	○				14 年教要
J9	2011	34 地点 J 9号住	1/4	(方形)	(395) × (330)	炉 2	① 52 × 68 ② 70 × 51			前期関山Ⅱ		市内遺跡群 11
J10	2012	41 地点 J10 号住	完掘	方形	400 × 418	炉	123 × 78	○	N-108° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J11	2012	41 地点 J11 号住	完掘	長方形	420 × 365	炉 2	① 57 × 60 ② 55 × 41		N-94° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J12	2012	41 地点 J12 号住	1/2	(方形)	(320) × (360)			○	N-25° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J13	2012	41 地点 J13 号住	3/4	(長方形)	(355) × (340)	炉	78 × 49		N-60° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J14	2012	41 地点 J14 号住	完掘	方形	310 × 310	炉	125 × 98	○	N-34° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J15	2012	41 地点 J15 号住	一部	(方形)	(125) × (170)			○	N-34° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 12
J16	2012	44 地点 J16 号住	完掘	隅丸長方形	515 × 404	炉	120 × 75	○	N-28° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群 13
J17	2012	41 地点 J17 号住	未掘	不明	(500 以上) × 450	—		—	—	前期関山	プランのみ確認	市内遺跡群 13

第 16 表 長宮遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形()は推定	規模	炉	設置壁	カマド・炉	周溝	主軸方位	時期	備 考	文 献
						カマド K		規模 cm					
H1	1978	4 地点 1 号住居	1/4	(方形)	×	K	東	×	○				埋蔵文化財の調査Ⅰ
H2	1993	19 地点 4 号住居	完掘	方形	×	K	北	×					埋蔵文化財の調査 15
H3	1997	96 年試掘(3)			×			×					埋蔵文化財の調査 19
H4	2002	02 年試掘(1)6 号住	完掘	台形	470 × 340	K	北	×	○		70 後半～80 初頭		埋蔵文化財の調査 25
H5	2002	02 年試掘(1)7 号住	完掘	長方形	530 × 450	K	北・東	×	○	N-15-W	80 初頭		埋蔵文化財の調査 25
H6	2002	02 年試掘(2)8 号住	完掘	方形	280 × 280	K	北	×			70 末～80 第 1 四半期		埋蔵文化財の調査 25
H7	2002	02 年試掘(2)9 号住	1/2	方形	280 × 280	K	南西	×	○		70 末～80 第 1 四半期		埋蔵文化財の調査 25



第 29 図 長宮遺跡遺構分布図(1/2,000)

近世以降の井戸や溝等を多数確認した。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは80～120cmである。

原因者と再度協議の結果、造成工事により表土層の削平が約60cm以上行われ、遺跡への影響が避けられないことから、原因者負担による本調査を実施した。

本調査の範囲は西側調査区の南北に延びる道路部分と、雨水等の浸透トレンチ部分とした。

本調査は遺跡の確認された部分を、2013年6月25日から7月30日まで、重機により表土層を除去し人力による調査を行った。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴6基、前期住居跡2軒、落とし穴1基、土坑15基、ピット4基、井戸5基、溝9本などある。遺物は縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑などである。

III 遺構と遺物

(1) J16号住居跡

縄文時代前期の住居跡は2軒(J16号住居跡、J17号住居跡)を確認したが、開発による影響を受けるJ16号住居跡の調査を実施し、J17号住居跡は保存措置とした。

【位置】2軒の住居跡は西側調査区に位置する。長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、南西部に位

置する。今回の調査区ではほぼ中央部で南東約6mにJ17号住居跡があり、住居跡の北側を風倒木による攪乱を受ける。

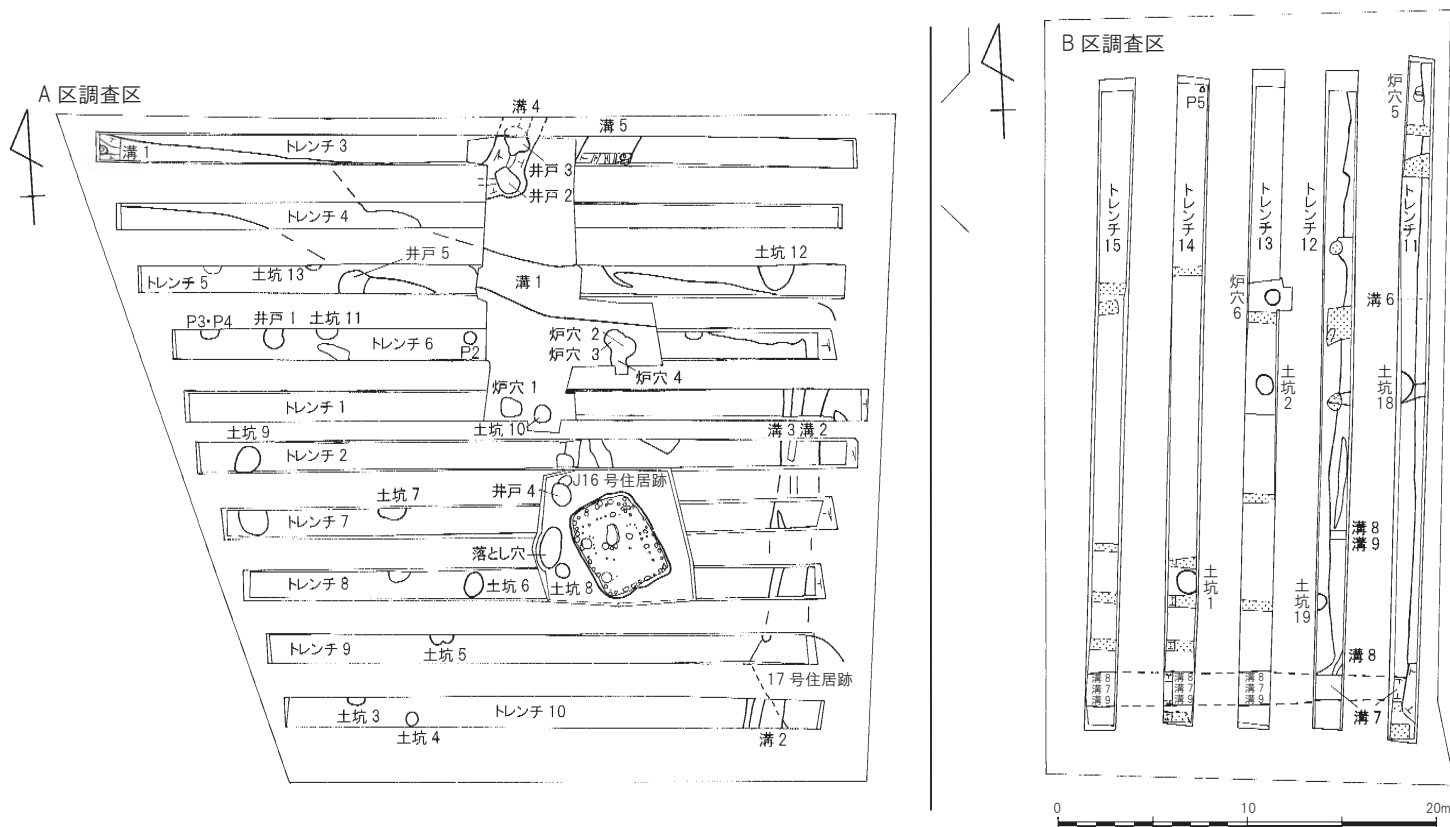
【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸515cm、短軸404cm、深さ46cmである。床面はほぼ平坦で、炉の周辺を中心に硬く締まる。

【炉】住居内の中央部やや北側に位置する。平面形態は不整楕円形で浅い皿状を呈する。規模は南北120cm、東西75cm、深さ12.6cmである。

土器沿炉とでも言うような、炉の北側に大型の土器片を七重に重ねて埋設する。土器の詳細については出土遺物で記載する。

【柱穴・土坑】主柱穴はP1～6(53)・9・71の6本～8本柱である。P8・11は炉の焼土面を掘り込んでいる。主柱穴の他には、壁際を巡る壁柱穴(P10・12・13他、約30～40本)と主柱穴と壁柱穴の間に巡る柱穴列(16・22・23他、約20～25本)がみられる。その他にも区別出来ない柱穴も多数ある。

P8・11をみると、住居の建て替えや拡張の可能性も考えられるが、P16等の柱穴列も同様に理解してよいのかは不明である。柱穴の他に西側の壁近くに土坑1・2が存在する。直径約60cmの円形で、深さは床面から15～25cmである。土層の観察からは本住居に伴うものと考えられる。



第30図 長宮遺跡第44地点遺構配置図 (1/400)

【遺物出土状況】住居跡の床面から壁面にかけて遺物の少ない黒褐色土(覆土の5層)が堆積する。堆積は住居中央部が薄く、壁際が厚い三角堆積である。ローム主体の5層が堆積した後、住居跡は窪地を形成する。

窪地に堆積する覆土層の1～4層からは、大量の土器片と焼けた礫が出土する。出土土器のうち、復元可能なものは覆土層の4層から出土し、破片は広範囲から出土する。また窪地内の南西部に、焼土面を有する大量の焼けた礫が密集して出土する。焼けた礫の集中部分には、特定の掘り込みを有する土坑等が確認出来ないため、住居跡の窪地を利用した集石(焼けた礫)遺構の可能性も考えられる。焼けた礫の詳細については第18表のとおりである。

【時期】住居跡の時期は出土土器から縄文時代前期の関山式Ⅰ式である。

(2) 炉穴・落とし穴・土坑・ピット・溝

①炉穴

炉穴は東西の調査区で検出した。出土遺物は炉穴5から出土した須恵器の口縁部片1点であるが、隣接する溝の影響を受けた遺物であり、炉穴自体の時期を示すものとは考えられない。本地点の北東約100mの第34地点で縄文時代早期末の炉穴群が確認されており、今回の遺構群も同様の時期と考えられる。各炉穴の詳細は第19表のとおりである。

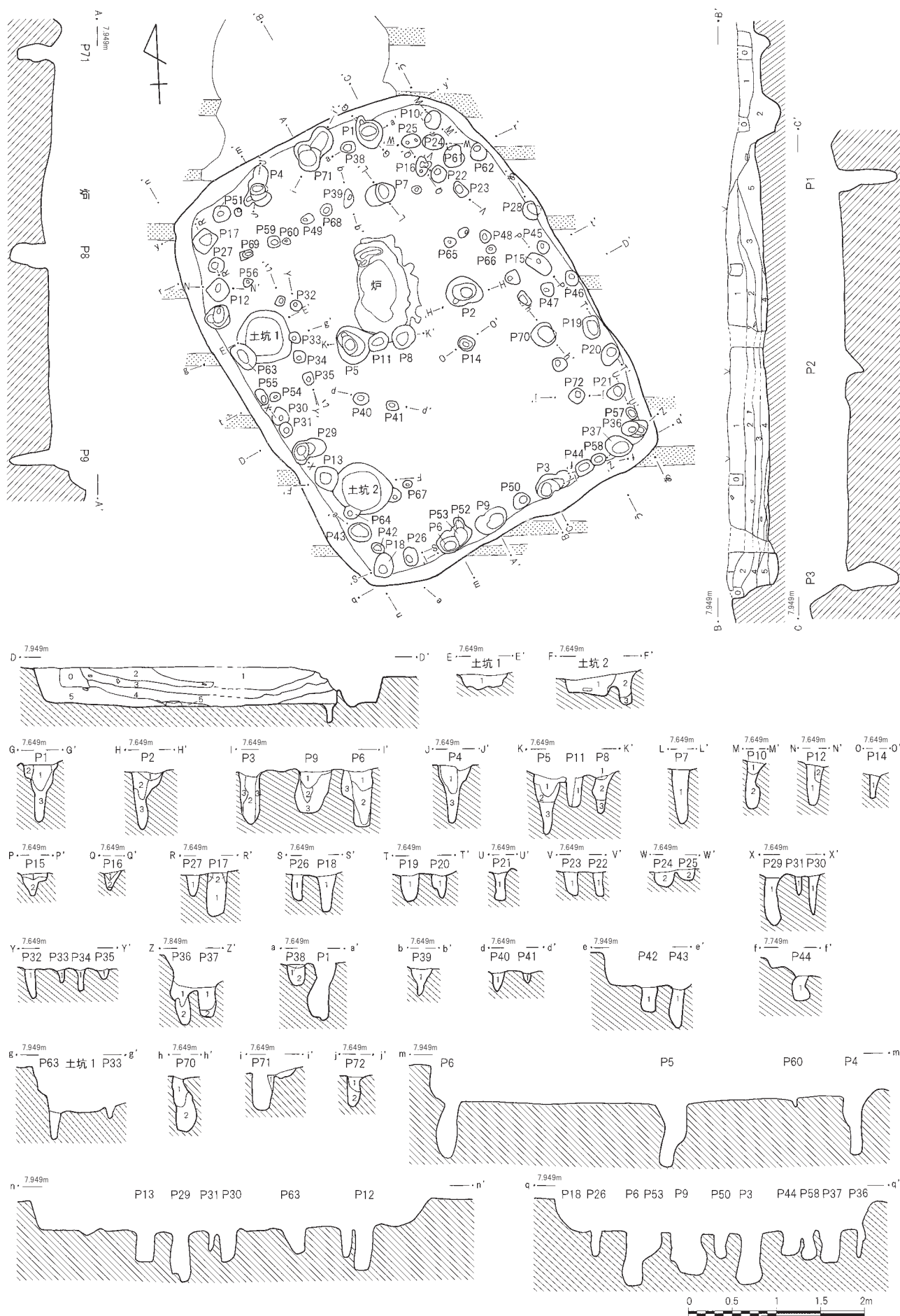
②落とし穴

落とし穴はJ16号住居跡の西側に位置し、土層の観察では縄文時代とみられる。平面形態は楕円形で、中段から底部はやや隅丸長方形状を呈する。規模は確認面径220×121cm、底径173×50cm、深さは82.1cmである。出土遺物はない。

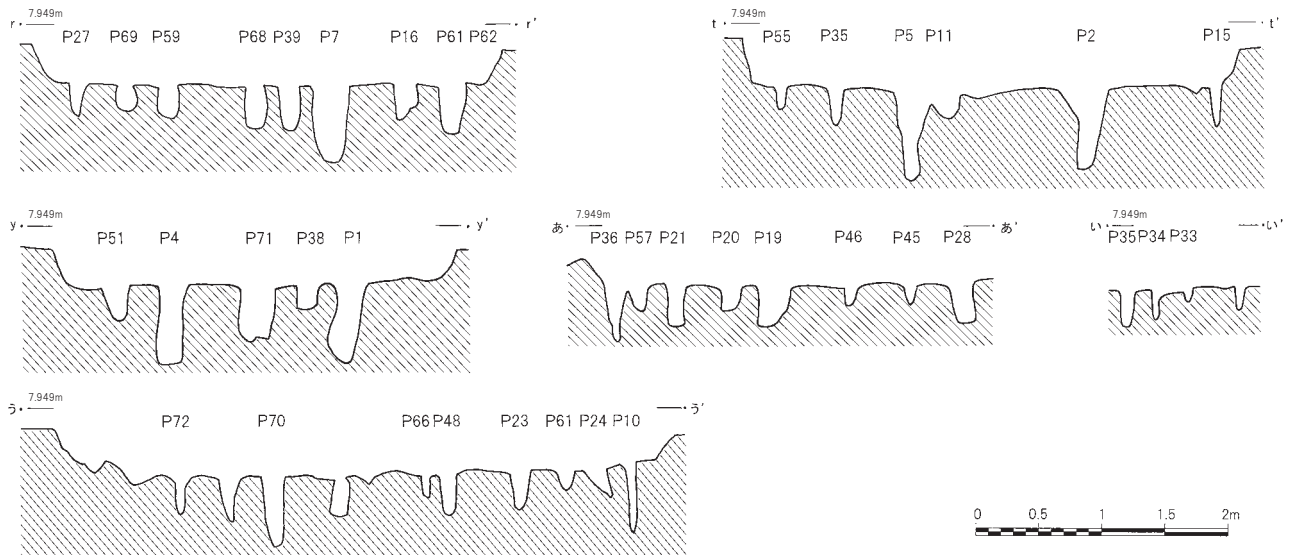
第17表 長宮遺跡第44地点J16号住居跡内土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底 径	深 さ	備 考
土坑1	円形	60×60	45×43	15.6	
土坑2	円形	60×60	43×42	22.9	
P1	不整形	40×30	18×10	65.1	
P2	楕円形	41×36	14×12	69.4	
P3	楕円形	44×24	15×13	65.6	
P4	不整形	45×25	13×7	66	
P5	円形	44×37	12×11	63.5	
P6	円形	25×25	13×11	65.5	
P7	円形	22×22	18×15	54.9	
P8	円形	27×25	13×13	44.8	
P9	楕円形	38×25	21×15	47.4	
P10	円形	20×20	15×13	58.8	
P11	円形	24×18	13×8	19.1	
P12	円形	26×25	10×6	31.8	
P13	円形	30×25	12×12	32.8	
P14	円形	20×17	10×5	39.2	
P15	楕円形	31×18	4×4	23.1	
P16	不整形	22×17	4×4	31.5	
P17	円形	29×29	15×13	27.8	
P18	円形	27×22	10×9	40.5	
P19	円形	25×19	18×10	31.4	
P20	円形	24×18	11×11	31	
P21	円形	23×18	12×10	28.8	
P22	円形	20×20	6×5	42.2	
P23	楕円形	18×15	11×9	32.2	
P24	楕円形	25×19	7×5	23.3	
P25	楕円形	22×15	5×5	24.4	
P26	円形	22×15	8×7	30	
P27	円形	18×18	7×5	47.5	
P28	円形	24×18	15×12	31.9	
P29	楕円形	38×23	12×9	56.5	
P30	円形	19×18	6×6	34.5	
P31	円形	15×15	6×5	28.5	
P32	円形	14×14	4×4	33	
P33	円形	14×13	4×4	17.5	
P34	円形	15×14	4×4	26.4	
P35	円形	14×12	4×4	30.4	

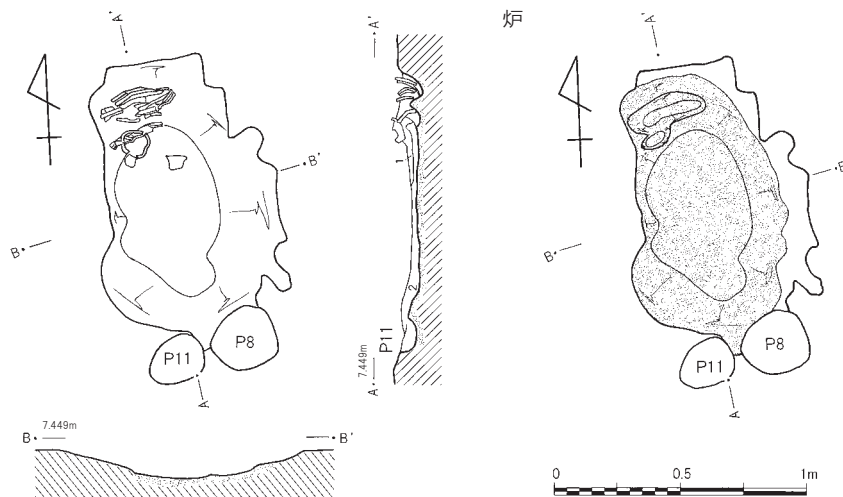
No.	平面形態	確認面径	底 径	深 さ	備 考
P36	楕円形	30×20	9×8	42.5	
P37	円形	30×25	18×14	54.3	
P38	円形	16×14	10×8	25.5	
P39	楕円形	21×11	5×5	35.6	
P40	円形	17×14	6×6	23.8	
P41	円形	15×10	6×4	13.7	
P42	円形	13×12	8×7	32.7	
P43	円形	27×21	20×18	56.5	
P44	円形	20×15	15×10	50.8	
P45	円形	15×13	4×4	33.6	
P46	円形	18×15	5×5	20.9	
P47	円形	15×15	4×4	20.4	
P48	円形	14×12	6×4	36	
P49	楕円形	15×10	5×4	30.5	
P50	円形	20×17	10×7	31.1	
P51	円形	20×19	7×7	31.5	
P52	円形	12×12	8×7	15.9	
P53	円形	24×20	16×14	32.8	
P54	円形	12×10	4×3	不明	
P55	円形	20×11	8×5	35.9	
P56	円形	10×10	3×3	17.3	
P57	円形	15×10	7×6	18.6	
P58	円形	18×14	10×8	50.7	
P59	円形	14×13	8×6	26	
P60	楕円形	10×7	2×2	11.9	
P61	不整形	25×25	7×7	43.5	
P62	円形	20×20	7×7	36.2	
P63	円形	33×22	17×8	45.5	
P64	円形	17×17	4×4	23.4	
P65	円形	14×10	4×2	19.1	
P66	円形	10×10	4×2	19.6	
P67	円形	10×8	2×2	15.1	
P68	円形	15×14	6×6	35.2	
P69	楕円形	15×10	7×4	21.2	
P70	円形	27×27	20×16	61.2	
P71	不整形	48×32	20×20	45.6	
P72	円形	17×15	6×6	32.8	



第31図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡(1/60)



遺物出土状況



16号住居跡

0. 攪乱

1. 黒灰褐色土 締り有、粘性有、粘性の強い土で5mm以下シミ状ローム・焼土粒少し含む、遺物多く含む
2. 黒灰褐色土 締り有、粘性有、1層にほぼ同じ、シミ状に3層黒褐色土少し含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、粘性強いが1・2層ほどではない、1mm大ローム・焼土粒少し含む
4. 黒色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒・1cm以下焼土・2cm以下炭化物多く含む、部分的に5層上面にまとまった炭化物層が見られる、遺物多く含む、No.1131/1132も5層上面で4層中より出土
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、縄文住居に普通に見られる土で、2mm以下ローム粒・焼土粒多量、1cm大ロームブロック少し含む、三角堆積、床面まで堆積
6. 黒色土 締り有、粘性有、炭化物層

土坑1・2

1. 黒色土 締りやや強、粘性有、3mm以下ローム粒多量に含む、1mm大焼土粒少し含む、住居の覆土5層に同じ
2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1層よりやや明るいほぼ1層に同じ
3. 明褐色土 締りやや強、粘性有、1・2層よりやや明るい以外はほぼ同じ、P3・6・9の2層に類似

ビット1・4・7・11(柱痕に焼土・炭化物多く含む柱)

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5mm以下ローム粒少し、2mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物多く含む、住居5層に類似
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層に同じで、1mm以下ローム・焼土粒少し含む、大型ローム含まない
3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームをシミ状に多く含む、全体的に黄褐色を呈し、焼土・炭化物ほとんど含まない

ビット2・8(柱痕に住居覆土の黒色炭化物層多く含む層)

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、住居4層に同じ、5mm以下炭化物多く、2mm以下ローム・焼土多く含む、やや多く黒灰色土をシミ状に含む
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム多く、2mm以下シミ状焼土・ローム多く含む

炉

3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム多く含む点は2層に同じだが、焼土・炭化物は全く含まない

ビット3・5・6・9・10・14(黒色土主体だが焼土・炭化物少ないもの)

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下シミ状・ブロック状ローム少し含む、焼土・炭化物含まない
2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ロームブロック多く含む、P1・4・7の3層、P2・8の3層に対応
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有

ビット12・13・17~21・24~26・29~31・36・37・39・44・49

1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土に1cm以下シミ状暗褐色ロームを斑状に含む、5mm以下ローム粒やや多く含む、住居5層に同じか

2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5cm大ロームブロックにシミ状に黒褐色土を少し含む

ビット14・16・22・23・27・42・43・45・46・47・50・51(小ビットで新しいビット)

1. 黒色土 締り強、粘性有、P12他のビットより黒色、1cm以下ロームをやや多く含む、住居5層よりローム粒が少なくやや粘性有

ビット32(P15・16~に類似するが底まで黒色土)40・41・48・59・60・69・70

1. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック多く含む、焼土・炭化物含まない(小ビットで古いビット)

ビット15・16・33・34(小ビット)上端確認面は広く大きい黒色土でプラン確認出来るが、下は細くやや浅いもの

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、焼土・炭化物含まない

2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ボロボロのローム主体にシミ状黒褐色土少し含む

ビット38・68

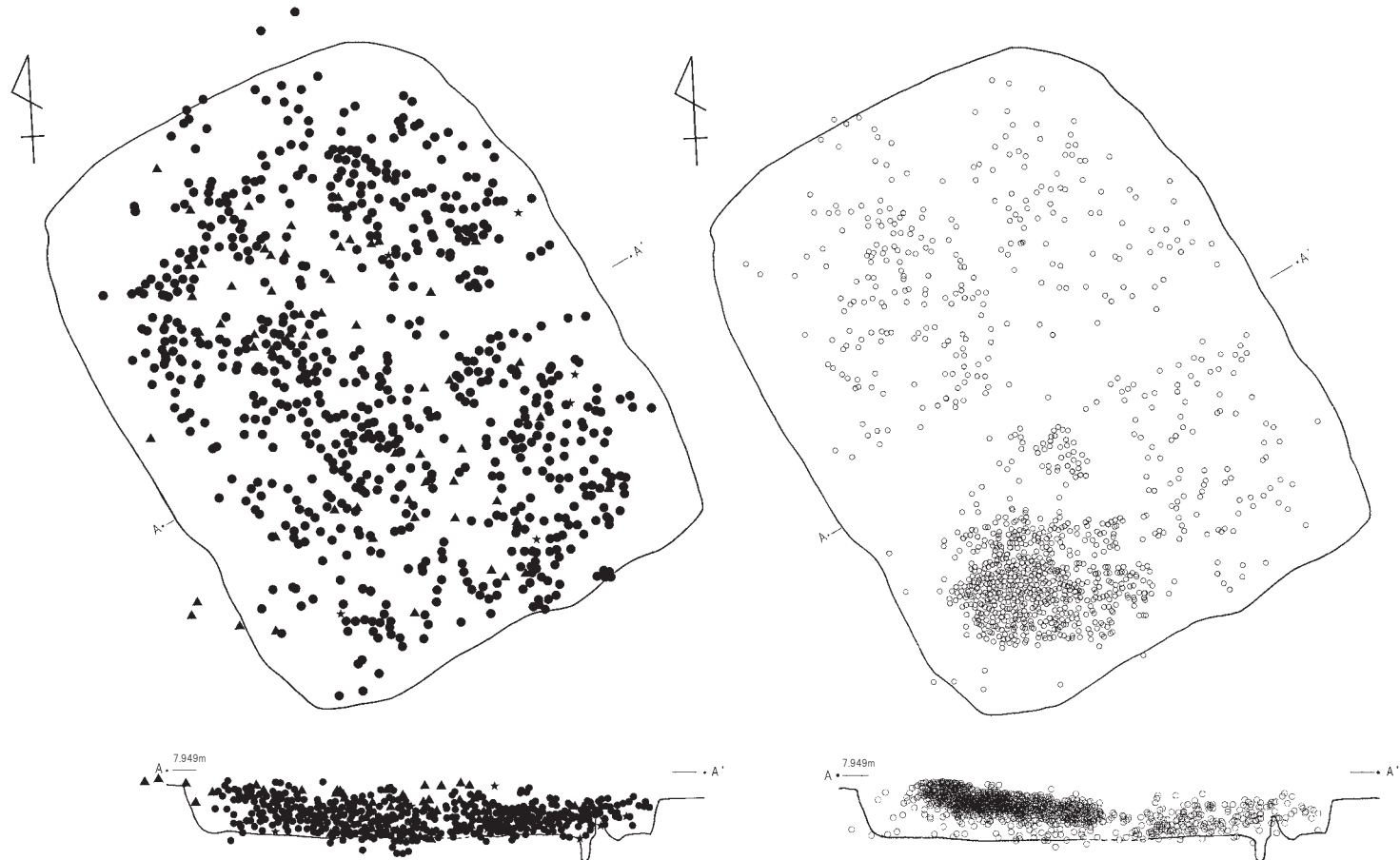
1. 褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックの貼床、シミ状に黒褐色土を少し含む(貼床)

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック多く含むが焼土・炭化物含まない

ビット70~72(貼床ビット深い)

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、粘性の強い2cm以下ロームブロック主体にシミ状に同大きさの黒褐色土を斑状に少し含む
2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ボロボロのブロック状ローム主体に斑状に黒褐色土少し含む

第32図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡土層(1/60)、炉(1/30)



第 33 図 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡遺物出土状況 (1/60)

③土坑・ピット

土坑は試掘調査と本調査合わせて 15 基検出した。土坑 14 は井戸 5 に、土坑 16 は炉穴 6 に、土坑 17 は炉穴 5 にそれぞれ名称変更し、土坑 15 は欠番である。土坑 3・6・7 は井戸の可能性がある。

ピットは試掘調査と本調査合わせて 4 基検出した。ピット 1 は欠番である。土坑、ピットの詳細は第 20 表のとおりである。

④井戸

井戸は西側調査区で 5 基検出した。土坑としたものには、井戸の可能性のあるものもある。井戸 1 の底部は未検出で、その他で底部が礫層に届くものはない。井戸 1、2、4、5 からは遺物が出土している。各井戸の詳細は第 20 表、出土遺物については第 22 表のとおりである。

⑤溝

溝は試掘調査と本調査合わせて 9 本を検出した。溝 1 ～ 5 は西側調査区、溝 6 ～ 9 は東側調査区に位置する。溝 1 はトレンチ 3 ～ 6 にまたがって東西に

延び、トレンチ 5 周辺を本調査した。溝 2・3 は南北方向に並行して延びる。溝 4 は 2 本の並行する溝が、北から西に屈曲して延びる。井戸 2・3 と重複し、土層の観察から、溝は井戸より新しい。溝 5 は南北方向に延びる。溝 6 は土地境にあって南北方向に延び、溝 7 と重なる。溝 6 は溝 7 より新しい。溝 7 ～ 9 は東西に並行して延び、溝 7 が最も新しく、溝 8 と溝 9 の新旧は不明である。溝の詳細は第 21 表、出土遺物は第 22 表のとおりである。

第 19 表 長宮遺跡第 44 地点炉穴一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底 径	焼土範囲	深さ	足場	備考
1	楕円形	115×90	67×60	67×60	27.4	—	
2	楕円形	270×170	22×15	75×58	41.8	—	
3	楕円形	240×173	50×40	50×40	19.3	—	
4	円形	150×130	100×80	113×80	35.1	—	
5	楕円形	75×63	45×45	60×53	13.0	—	旧土坑17
6	円形	90×80	55×50	55×50	16.5	—	旧土坑16

第 18 表 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡出土礫観察表 (単位 cm・個数・g(%))

総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成個数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
3,291	73,077.73	22,205	3,161 (96.05%)	130 (3.95%)	1,006 (30.57%)	2,285 (69.43%)	55 (1.67%)	3,236 (98.33%)

(3) J16 号住居跡出土土器(第 39 図～ 41 図)

4・6・8・44 は炉の埋設土器で、他は覆土層出土。1 は口径 20 cm(1/8 現存)。口唇部直下に幅 6 mm の半截竹管を横位に引き、直下に連続鋸歯文を付け、上より LR 単節、0 段 3 条 RL を交互に施文する縦羽状縄文。原体先端はループ文で区画し、上より幅 1.5 cm、2 段目幅 1.1 cm、3 段目幅 2.5 cm。4 段目幅 2.5 cm である。胴部中央にコンパス文を施文。2 は口径 24.5 cm(現存 1/6)。口縁部がやや内湾し、内刺の口唇部に山形小突起が 6 個付き、直下に平行沈線を引く。施文工程は、山形小突起を含む器形を整え→多段ループを上より施文(LR と RL 原体を交互に 8～9 段を密集施文)→胴部羽状縄文(LR の単節と 0 段 3 条 RL)→口唇部平行沈線(幅 4.5 mm の半截竹管)→胴部に幅 4.5 mm のコンパス文→山形突起を含め口唇部に鋭い刻み→小円形粘土粒貼付。3 は口径 31.5 cm(現存 1/2)。口唇部の山形小突起は欠落を含め 13 個ほどである。小突起群は 4 単位になろう。胴部下半と上半では縄文原体が異なり、追加成形による。羽状縄文が下段と対応し菱形縄文となるが、若干ずれて「崩れた」菱形文になる。施文工程は、胴部下半の器形の整え→RL の 0 段 3 条 RL、LR の 0 段 3 条による羽状縄文(上端にループ)→胴部

第 20 表 長宮遺跡第 44 地点遺構一覧表(単位 cm)

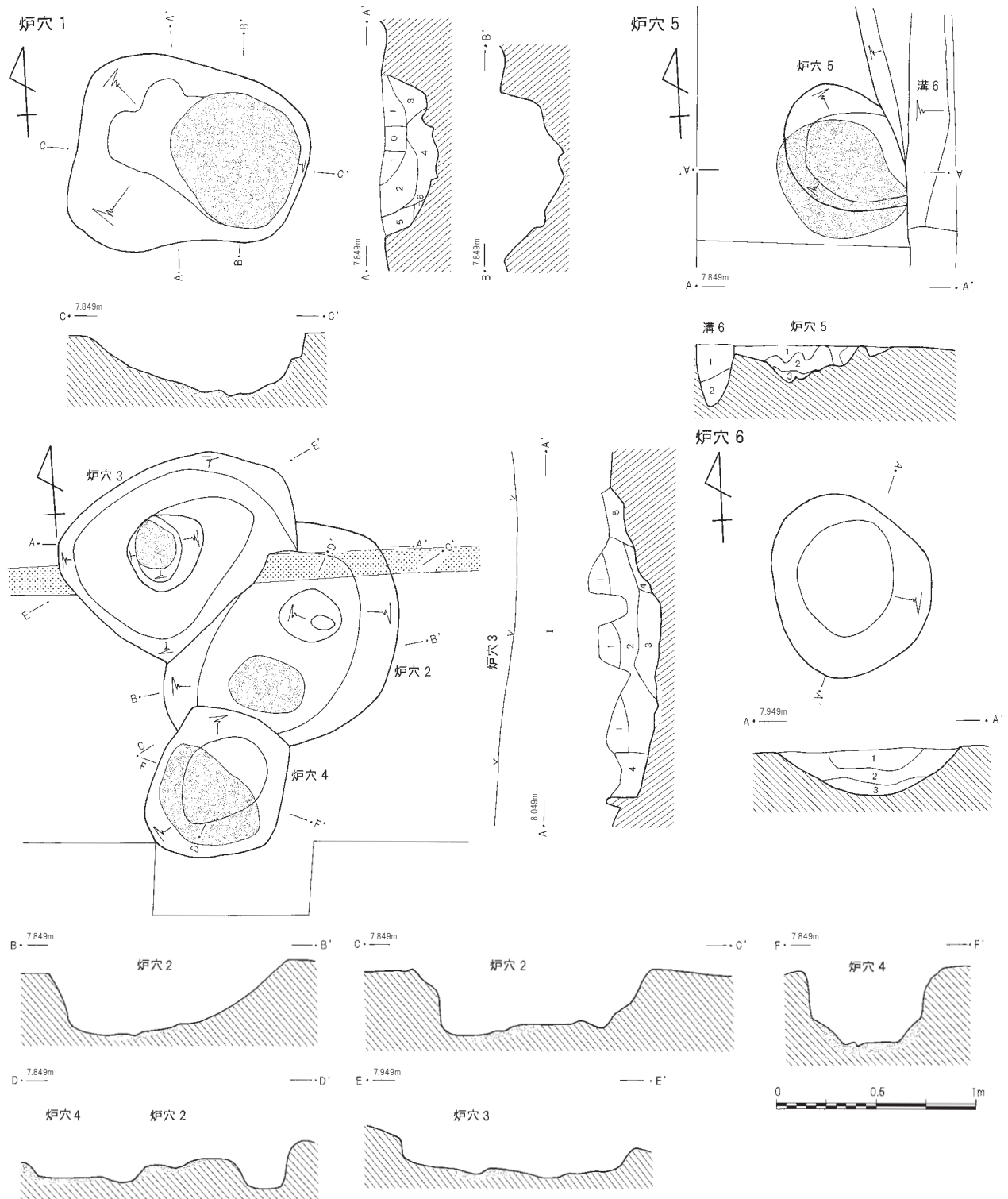
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
落とし穴	楕円形	220×121	173×50	82.1	
土坑 1	(円形)	123×(117)	93×(83)	20	
土坑 2	楕円形	124×91	20×8	55.7	
土坑 3	不明	110×(53)	55×(29)	63.7	
土坑 4	円形	85×75	65×60	9.3	
土坑 5	不明	110×(41)	26×(17)	16	
土坑 6	円形	134×130	85×85	77.8	
土坑 7	不明	113×(55)	24×(20)	96.9	
土坑 8	円形	87×(37)	60×(23)	58.3	
土坑 9	(円形)	145×134	130×97	44.9	
土坑 10	円形	87×85	67×64	61.1	
土坑 11	不明	120×(55)	57×(15)	46.9	
土坑 12	不明	200×(123)	123×(115)	10.4	
土坑 13	不明	100×(43)	68×20	34.8	
土坑 18	不明	170×(85)	80×(52)	31	
土坑 19	不明	90×(55)	65×(50)	9.7	
井戸 1	(円形)	115×(115)	80×66	229.3	
井戸 2	円形	170×149	60×23	126.5	
井戸 3	(円形)	120×(82)	48×47	111.4	
井戸 4	円形	115×105	69×60	98.6	
井戸 5	(円形)	145×(110)	58×(40)	103.6	旧土坑 14
ピット 2	円形	65×65	55×55	36.3	
ピット 3	(円形)	30×(22)	15×(15)	20.0	
ピット 4	円形	52×40	17×12	32.4	
ピット 5	円形	40×35	12×8	43.6	

第 21 表 長宮遺跡第 44 地点溝一覧表(単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝 1	深い「U」字形	217～273	20～40	94.6	
溝 2	浅い「U」字形	100～125	30～39	30.1	
溝 3	浅い「U」字形	42～65	11～24	19.1	
溝 4	深い「U」字形	135～200	25～35	43.1	
溝 5	浅い「U」字形	270～280	33～50	61.9	
溝 6	深い「U」字形	74～90	39～55	23.1	
溝 7	浅い「U」字形	80～128	55～68	28.2	
溝 8	浅い「U」字形	45～180	30～55	13.6	
溝 9	浅い「U」字形	33～40	～25	24	

第 22 表 長宮遺跡第 44 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

No.	出土遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	材質・重さ・技法・文様・その他	推定産地	推定年代	残存 / 備考 / 注記 No.
71	16 号住居跡	石器 / 石鏃	1.5	1.4	0.3	石質: チャート / 重量 0.65g	在地	縄文時代	完形 / J16 住 No. 1
72	16 号住居跡	石器 / 石鏃	2	1.5	0.35	石質: 頁岩 / 1.15g	在地	縄文時代	完形 / J16 住 No. 953
73	16 号住居跡	石器 / 石鏃	1.7	1.3	0.4	石質: チャート / 0.62g	在地	縄文時代	完形 / J16 住 No. 1279
74	16 号住居跡	石器 / 石鏃	2.5	(1.3)	0.5	石質: チャート / 1.35g	在地	縄文時代	一部欠損 / J16 住 No. 981
75	16 号住居跡	石器 / 浮子	(3.5)	3.4	3.4	石質: 軽石 / 12.68 / 側面に溝状の窪み有り	在地	縄文時代	一部欠損 / J16 住 No. 991
76	16 号住居跡	石器 / 凹石	(7.4)	8	3.8	石質: 安山岩 / 249.8g	在地	縄文時代	下部欠損 / J16 住 No. 1093
77	16 号住居跡	石器 / 凹石・敲石	9.0	5.8	3.6	石質: 安山岩 / 324.7g	在地	縄文時代	下部欠損 / J16 住 B 区 1 層
78	16 号住居跡	石器 / 凹石・敲石	10.1	5.6	2.3	石質: 安山岩 / 206.81g	在地	縄文時代	完形 / J16 住集石
79	16 号住居跡	石器 / 磨石	(6.8)	(7.9)	5	石質: 安山岩 / 288.18g	在地	縄文時代	一部残存 / J16 住 No. 1278
80	16 号住居跡	石器 / 石皿・敲石	11.7	10.07	2.4	石質: 砂岩 / 368.0g	在地	縄文時代	完形 / J16 住 C 区
81	16 号住居跡	石製品 / 小玉	0.7	1.15	0.3～0.45	石質: 滑石 / 1.41g / 孔径 0.3	在地	縄文時代	完形 / J16 住 D 区 3
82	炉穴 5	須恵器 / 甕?	(17.4)	—	0.6	口縁から口縁内に降灰 / 外面に平行叩き目	—	—	口縁部一部残存 / D17
83	井戸 1	土器 / カワラケ	—	(6.0)	0.6	轆轤成形 / 底部糸切痕 / 胎土: 軟質でにぶい橙色	在地	16c	底部残損 / 井戸 1 一括
84	井戸 1	土器 / カワラケ	—	(9.4)	0.8	轆轤成形 / 底部糸切痕 / 胎土: 軟質でにぶい黄橙色	在地	16c	底部片 / 井戸 1 一括
85	井戸 1	土器 (瓦質) / 焙烙	(23.0)	—	0.9	轆轤成形 / 色調: 黒褐色	在地	16c	口縁部片 / 6 トレ井戸 1
86	井戸 1	土器 (瓦質) / 内耳鍋	(22.0)	—	0.8	轆轤成形 / 色調: 暗灰黄色	在地	15～16c	口縁部片 / 井戸 1 一括
87	井戸 1	陶器 / 有耳甕	(11.0)	—	0.6	轆轤成形 / 耳貼付 / 鉄釉	瀬戸・美濃	1630～1660 年代	口縁部片 / 6 トレ井戸 1
88	井戸 1	焼締陶器 / 壺	(9.6)	—	1.0	轆轤成形 / 色調: 赤褐色	在地	—	口縁部片 / 6 トレ井戸 1
89	井戸 1	陶器 / 碗 / 天目碗	—	4.7	0.6	轆轤成形 / 鉄釉	瀬戸・美濃	—	底部 / 6 トレ井戸 1
90	井戸 1	陶器 / 搥鉢	—	—	0.8	轆轤成形 / 鉄 (錆) 釉 / 内面に櫛目	瀬戸・美濃	—	体部片 / 井戸 1 一括
91	井戸 2	石器 / 磨石・敲石	9.25	6	5	石質: 多孔質安山岩? / 382.73g	—	縄文時代	完形 / 井戸 No. 3
92	井戸 2	石製品 / 板碑	64.7	27	2.7	石質: 緑泥片岩 / 重量: 115 kg / 掘り方: 薬研形 / 裝飾: 二条線、阿弥陀三尊、主尊種子「ナリク」(阿弥陀如来)月輪、蓮座」、脇侍種子「サ(観音菩薩)月輪、蓮座」、脇侍種子「サ(勢至菩薩)月輪、蓮座」/ 真言: 光明真言 / 焼「光明遍照 十方世界 念仏衆口 摂取口」/ 紀年銘: 応永二十八口口口。裏面のみ痕	—	1394～1427	山形の一部と基部欠 / 井戸 / 表面摩滅と底部側縁に擦り跡が有り、転用の可能性有り
93	井戸 4	須恵器 / 坏	—	(6.0)	0.9	轆轤成形 / 底部糸切痕・凹形 / 胎土: 灰白色	在地	—	底部 / 井戸 4
94	井戸 4	焼締陶器 / 大甕	—	—	1.3	紐轆成形 / 胎土: 灰色 / 自然釉	常滑	—	胴部片 / 井戸 4
95	井戸 4	焼締陶器 / 大甕	—	—	1.3	紐轆成形 / 自然釉 / 矢筈形文様(菱形状)の押印 / 胎土: 灰色	常滑	13c	肩部片 / 井戸 4
96	井戸 5	土器 / カワラケ	(11.6)	(6.6)	2.6	轆轤成形 / 胎土: 軟質で橙色	在地	16c	1/4 残存 / D14-2
97	井戸 5	陶器 / 碗 / 天目碗	(8.3)	—	0.6	轆轤成形 / 鉄釉	瀬戸・美濃	16c	口縁部一部 / D14-2
98	井戸 5	陶器 / 碗 / 丸碗	(11.5)	4.4	6.5	轆轤成形 / 灰釉 / 底部火膨れで中空	瀬戸・美濃	16c 後半	1/2 残存 / D14-1
99	土坑 6	焼締陶器 / 甕	—	—	1.0	紐轆成形 / 胎土: 灰色	常滑	12c 後葉	口縁部一部 / 8 トレ D6
100	土坑 6	焼締陶器 / 片口鉢	(14.4)	—	0.8	紐轆成形 / 胎土: 灰色	常滑	12c	口縁部一部 / 8 トレ D6
101	溝 1	土器 (瓦質) / 内耳鍋	(28.8)	—	0.9	轆轤成形 / 外面に煤付着	在地	—	口縁部一部 / 3 トレ M
102	溝 1	土器 / カワラケ	11.8	5.0	2.8	轆轤成形 / 内面に沈線で渦文 / 胎土: 灰白色	在地	16c 前半	3/4 残存 / 3 トレ M
103	溝 1	石器 / 打製石斧	16.9	11.2	3	石質: 輝緑凝灰岩? / 568.34g	—	縄文時代	完形 / 3 トレ溝
104	溝 1	石器 / 石皿・凹石・板碑?	20.7	10.7	2.2	石質: 緑泥片岩 / 760.18g / 穿孔有り、2 条線有り	—	縄文時代	破片 / 3 トレ溝 1
105	溝 1	石器 / 磨石・敲石	(8.6)	10.5	3.5	石質: 安山岩 / 557.5g	—	縄文時代	一部残存 / 3 トレ溝
106	溝 6	陶器 / 卸皿	(14.0)	—	0.4	轆轤成形 / 灰釉 / 内面に櫛目	瀬戸・美濃	13c 後～14c 前葉	口縁部一部 / M6・7
107	溝 6	石器 / 打製石斧	(7.7)	5.7	3.8	石質: 細粒砂岩 / 188.1g	—	縄文時代	一部残存 / 溝 6
108	遺構外	石器 / 石鏃	1.7	1.3	0.4	石質: チャート / 0.71g	—	縄文時代	完形 / H5
109	遺構外	石器 / 石鏃	1.4	1.5	0.3	石質: 黒曜石 / 0.45g	—	縄文時代	完形 / H2
110	遺構外	金属製品 (銅) / 銭貨	2.43	2.44	0.13	材質: 銅 / 孔径 6 mm / 重量 3.85g / 「永楽通宝」 / No. 110～114 は錯着して出土	明	初鑄 1408 年	完形 / 10 トレ
111	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.45	2.46	0.13	材質: 銅 / 孔径 6 mm / 重量 3.08g / 「永楽通宝」	明	初鑄 1408 年	完形 / 10 トレ
112	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.52	2.51	0.10	材質: 銅 / 孔径 6 mm / 重量 2.91g / 「永楽通宝」	明	初鑄 1408 年	完形 / 10 トレ
113	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.45	2.46	0.11	材質: 銅 / 孔径 6 mm / 重量 3.0g / 「永楽通宝」	明	初鑄 1408 年	完形 / 10 トレ
114	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.48	2.48	0.15	材質: 銅 / 孔径 6 mm / 重量 3.65g / 「永楽通宝」	明	初鑄 1408 年	完形 / 10 トレ



炉穴 1

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒・3mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下焼土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く・5mm 以下焼土やや多く含む
4. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く・3mm 以下焼土やや多く含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く・3mm 以下焼土少し含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体に 1cm 以下ロームブロック多く含む

炉穴 3

I. 表土

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・1mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下、最大 5mm ローム粒・3mm 以下焼土やや多く含む、上層より黒色味強い
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調黄灰色味がある、2mm 以下ローム粒・焼土やや多く、1～5mm 炭化物少し含む
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土とローム土が混ざる
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含む、黄褐色味がある、3mm 以下焼土やや多く含む

炉穴 5

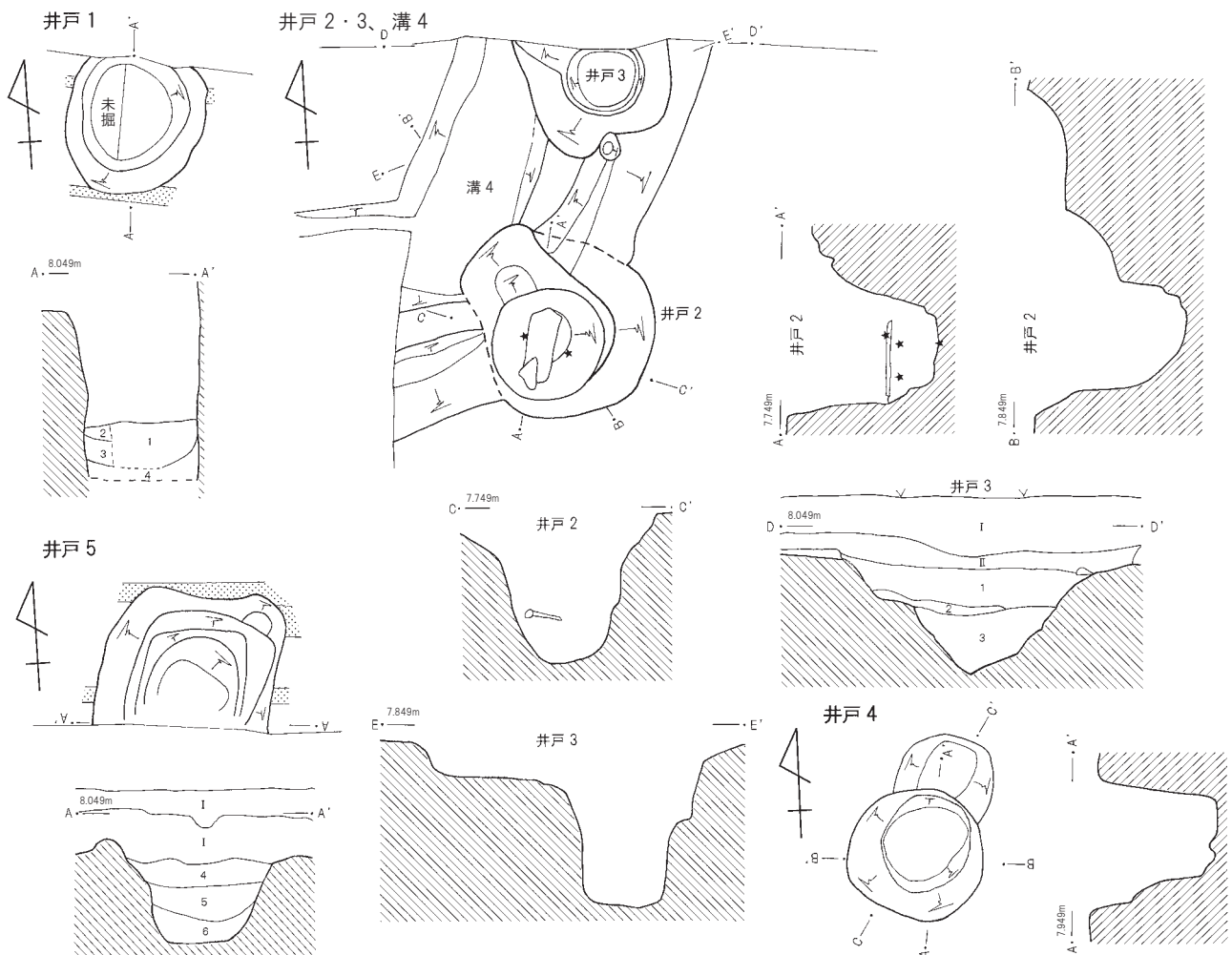
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土多く含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

炉穴 6

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mm 焼土多く含む、赤褐色味がある
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mm ローム粒・焼土やや多く含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

第 34 図 長宮遺跡第 44 地点炉穴 1～6(1/30)





土坑 3・7

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒均一に少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より色調暗め、シミ状に灰黄色土を含む、1mm 以下ローム粒均一に少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味有る、2mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土をやや多く、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム土主体
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を少し含む

土坑 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にロームブロックを多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、シミ状にローム土を少し含む

土坑 6

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、青灰色味有る、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性強、ロームブロックやや多く含む

土坑 9

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒均一にやや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より色調暗め、2mm 以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄灰色土、2mm 以下ローム粒少し含む
4. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土・3mm 以下ローム粒多く含む、上層より色調明るめ

土坑 16

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mm 焼土多く含む、赤褐色味有る
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mm ローム粒・焼土やや多く含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

土坑 10

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒不均一にやや多く含む、灰色味有る
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味有る、1.5cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒灰色味有る、3mm 以下ローム粒少し含む

土坑 11

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む、1cm 以下酸化土少量が目立つ
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰黒味有る、3mm 以下ローム粒少し含む

土坑 12

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、茶褐色味有る、5～15mm ロームブロックやや多く含む
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム粒主体、シミ状に黒褐色土含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、茶褐色味有る、3mm 以下ローム粒少し含む
4. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、地山ロームに似るが、シミ状に黄灰色土を多く含む

土坑 13

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm 以下ロームブロックやや多く、5mm 以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性強、5mm 以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より粘性弱く、2mm 以下ローム粒均一にやや多く、3mm 以下焼土少し含む

土坑 18

1. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ
1. 黒褐色土 締り強、粘性強、2mm 以下ローム粒少し、2mm 焼土僅かに含む、灰褐色味有る
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、2mm 以下ローム粒少し、シミ状にロームブロックを少し含む
3. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体に 3cm 以下ロームブロック多く含む

土坑 19

1. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 未満ローム粒やや多く含む

井戸 1

1. 黒褐色土 締り弱、粘性弱、5mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調明るめ、5mm 以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む、上層より黒色味が強い
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、上層より色調明るめ、シミ状に酸化土・3mm 以下ローム粒少し含む

井戸 3

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土、5mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土、1cm 以下ローム粒多く含む

IV.

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、1cm 大ロームブロック少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く、上層にはロームを多く含む
3. 黒色土 締り強、粘性有、シミ状に 5cm 以下灰色粘土多く、5mm 以下ロームは少し含み、全体に赤褐色酸化鉄をシミ状に多く含む、1・2 層は溝覆土で溝が井戸より新しい

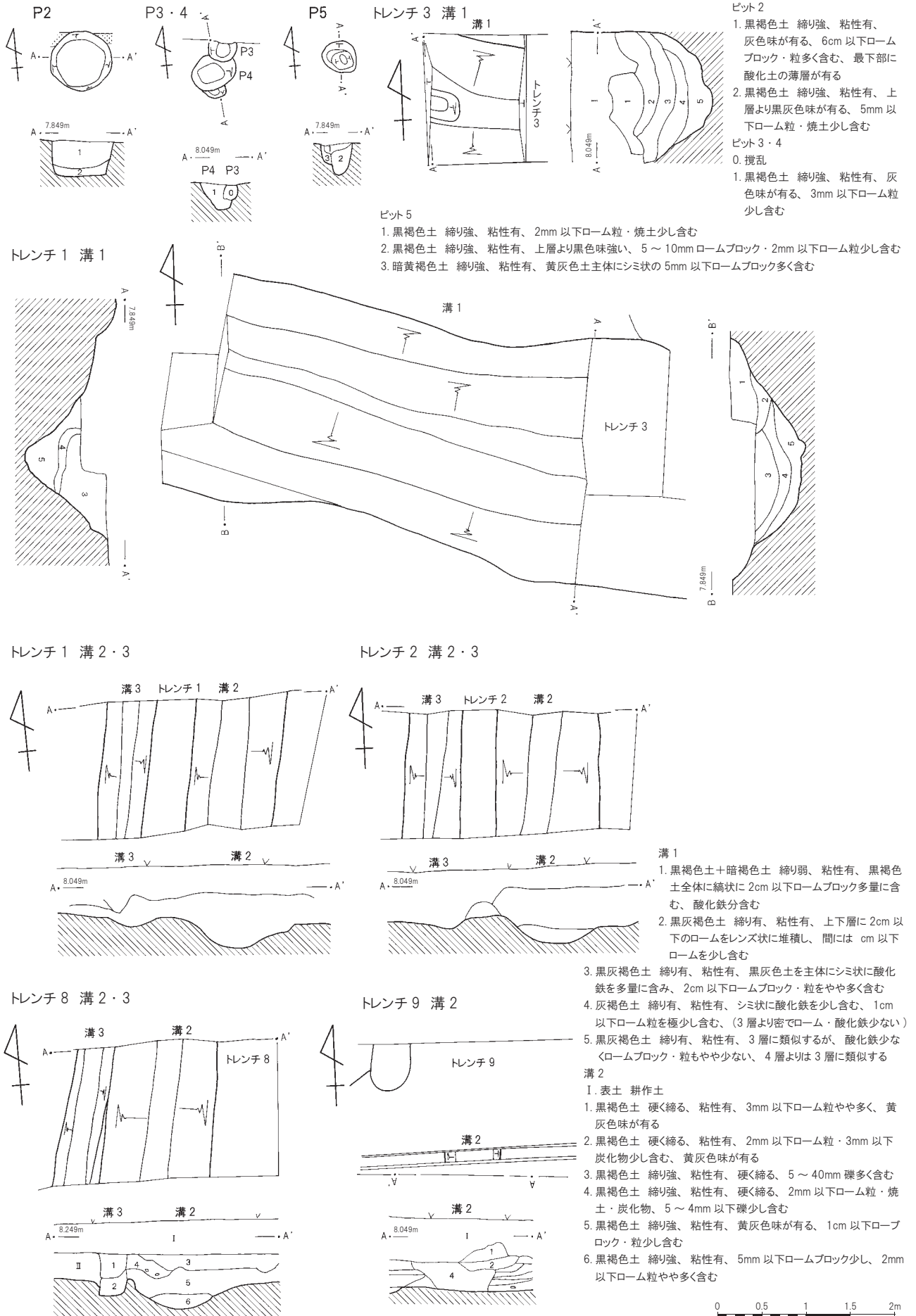
井戸 4

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土粒極少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土粒多量に含む

井戸 5

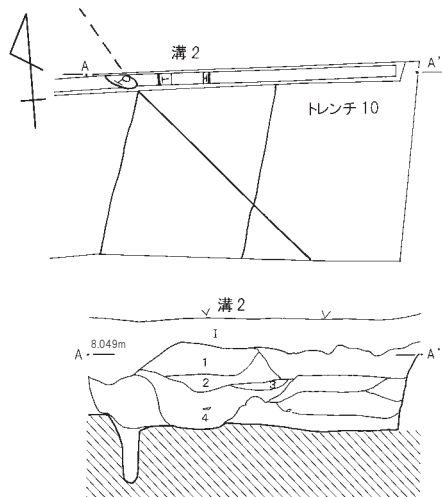
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より締り強め、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より灰黒味有る、5mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、上・下部にローム土やや多く含む、3mm 以下ローム粒やや多く含む、黄灰色味有る

第 36 図 長宮遺跡第 44 地点井戸 1～5 (1/60)

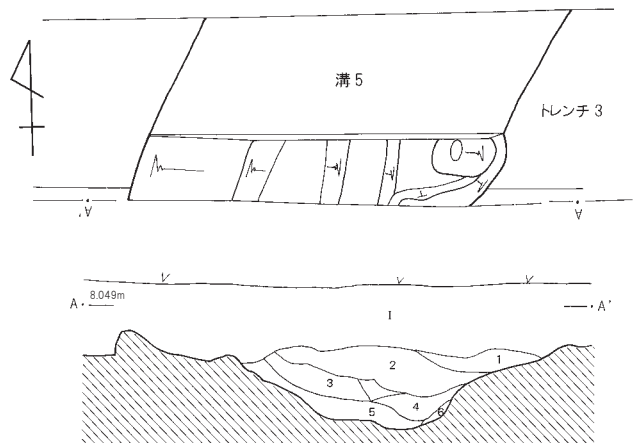


第 37 図 長宮遺跡第 44 地点ピット 2～5・溝 1～3(1/60)

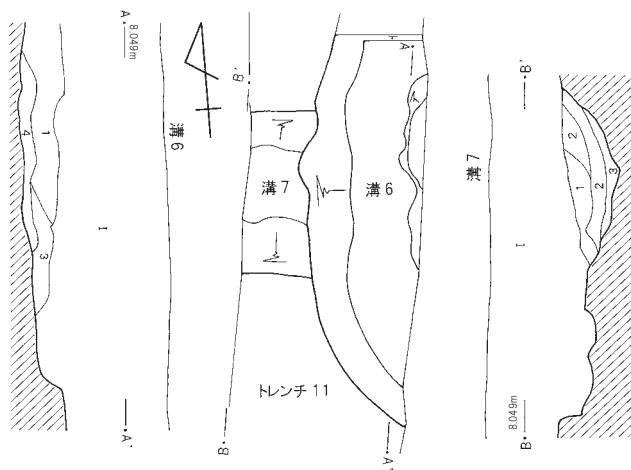
トレンチ10 溝2



トレンチ3 溝5



トレンチ11 溝6・7



溝3

I. 表土 耕作土

II. 黒褐色土 粘性やや弱、1.5cm以下ロームブロック・粒多く含む、溝より旧い盛土

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、ややボソボソしている

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、5mm以下ローム粒やや多く含む

溝5

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～50mmロームブロック多く含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、5mm以下ローム粒少し含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む、やや灰色味が有る、1cm以下茶褐色の酸化土をシミ状に少し含む

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～15mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む

6. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む

溝6

I. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒多く含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、5～10mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm以下ローム粒やや多く、5～20mmロームブロック少し含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ベースの土は上層より黒色味強く、3mm以下ローム粒やや多く、ロームブロックは5～100mmの小～大型のものを多く含む

溝7

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、2mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む

2'. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は2層と3層の間色、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、3mm以下ローム粒多く含む

4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに、ロームブロック主体

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックやや多く含む

溝8

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調明るめ、3mm以下ローム粒やや多く含む

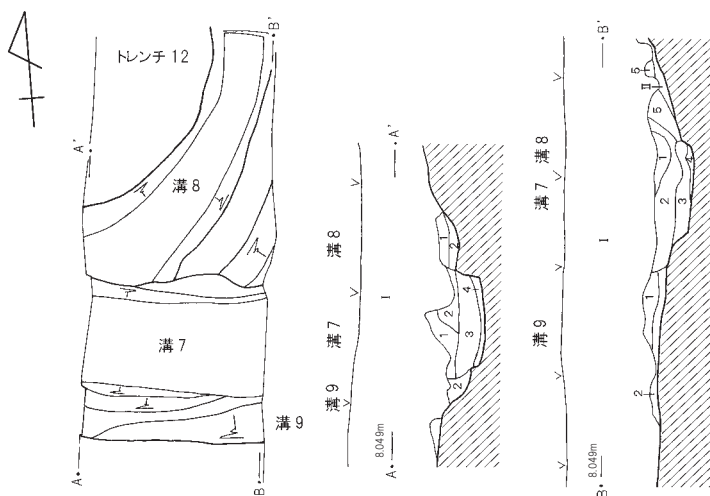
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック・粒やや多く含む

溝9

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、溝7の2層より締り強め

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、溝7の3層より色調明るい

トレンチ12 溝8・9



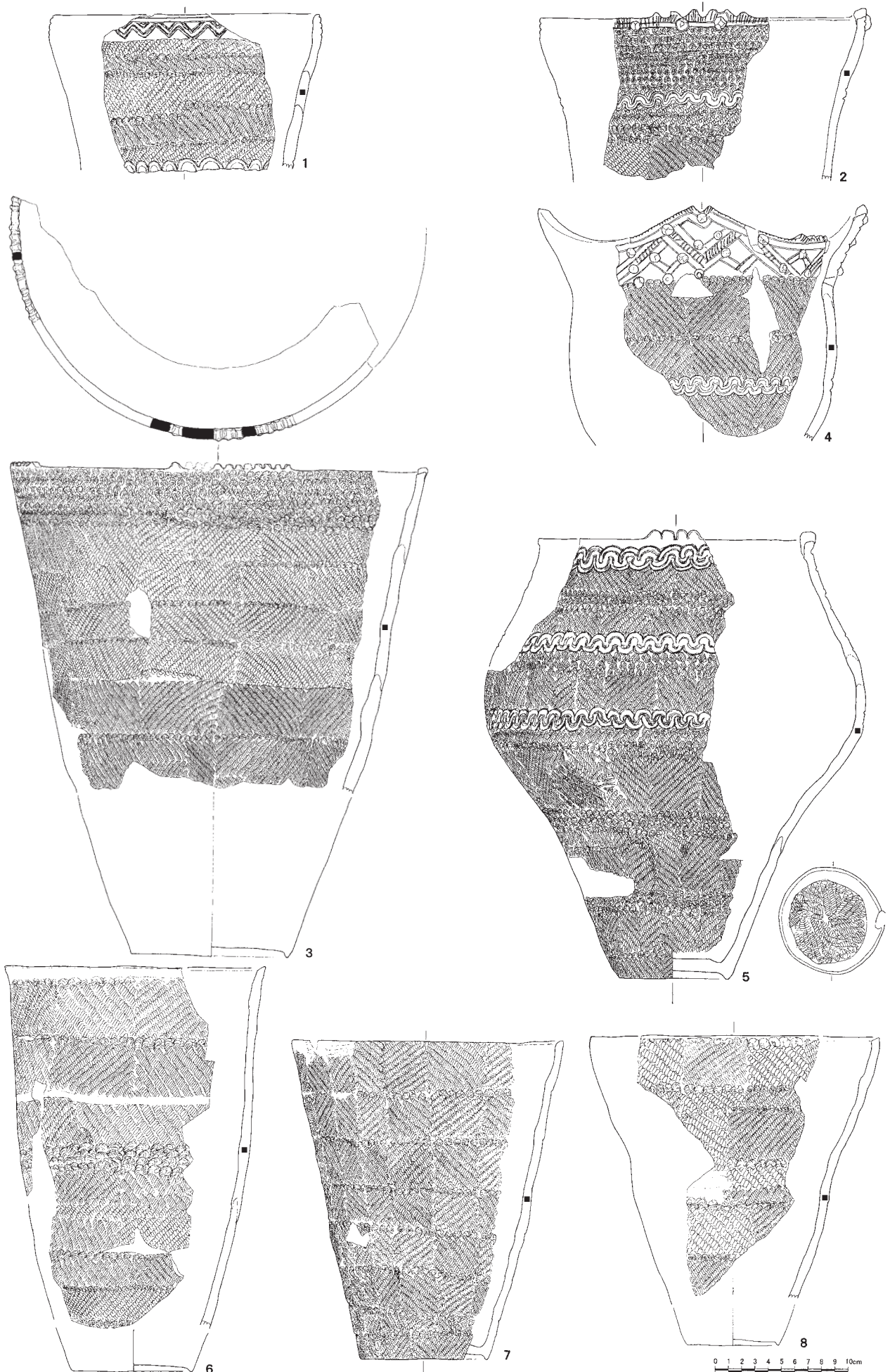
第38図 長宮遺跡第44地点溝2・5～9(1/60)

上半の追加、口唇部の小突起、器形の整え→6段の多段ループ→RLとLR(0段2条)羽状縄文の先端はループ。4は二股波状口縁で、口径24cm(現存1/4)。施文工程は、胴部に0段3条RLと同LRによる上端ループの羽状縄文→幅6mmの半截竹管で平行沈線、6本沈線で多重鋸歯文→①胴部中央にコンパス文→②口唇部と口縁部に刻み→鋸歯文の交点を中心に円形粘土粒を貼り付ける。工具の使用の連続性から想定、①と②の順序は不明。羽状縄文は上段と下段で菱形文。5は口径20.7cm(口縁部1/8現存、胴部は1/2～全周現存)。胴部中央下半で追加成形のため羽状縄文が乱れる。口唇部は水平で4個以上の小半円突起が付く。0段3条RLと同LRによる横位の羽状縄文と3段のループ文を交互に施文後、上段に幅7mmのコンパス文3段を加飾。底部に0段3条RLを螺旋状に施文。6は口径19.0cm(現存3/4、底部欠)。口唇部は内剃。胴部下半の羽状縄文は幅が狭く追加成形と思われる。胴部下半は、0段3条RLと0段3条LRで、3段の斜状縄文帯、上部は4段目の一部にLR単節を施文。胴部中央の3段のループ文帯を挟み、胴部上半は0段3条RLと0段の太さが異なる0段3条で菱形縄文と羽状縄文を構成し、縄文帯の幅は下半より広い。7は口径20.5cm(現存1/2)。口唇部は内剃で先端が尖る。0段3条RL、同LRで、縦横の等間隔施文で菱形縄文を施文。横位のループ文で8段の区画とし、最下段の2区分は上段の1区分に等しい。最下段2区分は全体が8区分の意匠と思われる。8は口径19.6cm(現存1/4)。胴部中央が緩く括れる。0段3条LRと0段2条RLにより羽状縄文を施文。上より2段目・4段目の縄文帯幅が、1段目の半分程度で、いびつな菱形縄文。9は口径17cm(現存1/4)。内面下半は黒褐色、上半黄褐色。胎土に灰色・黄色の砂粒と石英を含む。中央上半に追加成形あり。地文は上段より無節RIとLr羽状縄文、2段目・3段目は各々先端ループの無節Lr、無節RI縦羽状縄文。4段目は0段LIの燃戻し。10は口径16cm、底径7cm、器高20cm。中央上半に追加成形があり、一部追加による縄文施文やナデによる無文部分がある。縄文は横羽状縄文が中心で菱形を構成しない。上段・二段目は無節、三段目は幅が狭く単節RIと無節Lr。4～6段目は0段3条によるRLとLR羽状縄文。11は口径18cm(現存1/2)。口唇部に小山形突起が付き、胴部下半に2度の追加成形がある。口縁部に外面から内面に貫通する、径

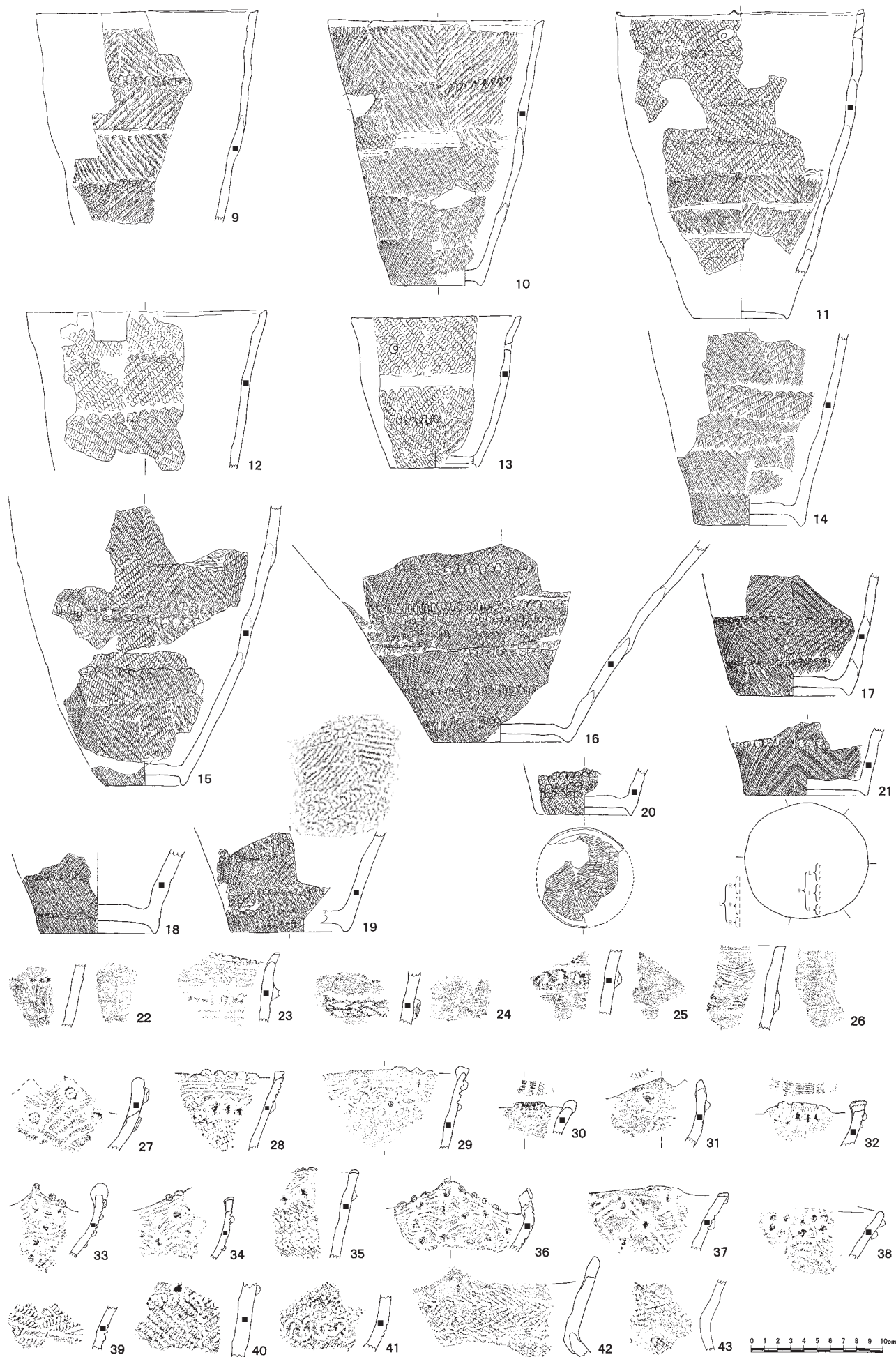
0.8～1.3cmの補修孔有。縄文帯は上記11の土器と比較すると半分、幅2～2.5cmの幅狭羽状縄文帯である。1～5段はRLとLR単節で横羽状縄文、一部菱形縄文。6段目は0段3条LRと無節RI羽状縄文。下半の7～9段目はRIとLr無節で横羽状縄文、菱形になるかは不明。12は口径18cm(現存1/8)。縦の羽状縄文で、横羽状縄文はない。上段RL、2段目LR単節。3段目0段3条の先端ループのRL。13は口径12.8cm(現存1/4、底部欠)、底径6.5cm、器高11.5cmで最も小形である。胴部中央の無文帯は、追加成形による接合帯。口唇部より2.5cm下方に外面から内面に貫通する、径4～7mmの補修孔有り。上半はRL単節、下半はLRとRL単節原体を結束して菱形縄文に施文。一部にLr無節を施文。14～21は底部が上げ底形態で、色調は茶褐色から黒褐色。14は底径8.5cm現存(5/6)。地文は0段3条RLとLR。上段の羽状縄文は幅広で、下段の5段は幅が狭い。15は底径6cm(現存3/4)、二回の追加成形がある。一つは中央部の3段のループ帯と、もう一つは下の縄文帯の下端である。最下段の成形部は0段3条RLとLRにより施文。その上の追加成形は0段3条に加えて0段2条の羽状縄文を施文。16は底径10cm(現存3/4)、底部より大きく外湾する。0段3条のRLとLRを施文。底部より最下段は横羽状縄文、2・3段目は菱形縄文を構成する。縄文帯の幅は3.5cm。4段目は3段ループ帯を施文、4段目の上下に追加成形の接合痕が著しい。5・6段目は菱形縄文を施文。17は底径9cm(全周)。0段3条RLとLRを施文。縄文帯の幅は3.5cm、最下段の幅は2.5cmで整然とした菱形縄文を施文。縄文の重なりにより器面を逆時計回りに施文。18は底径8.5cm(現存2/3)。0段3条RLとLRを施文。縄文帯の幅は最下段が1.5cm、その上は3.0cmで整然とした菱形縄文を施文。底面の磨きが著しい。19は底径8.5cm(現存1/2)。0段3条RLとLRで、下端より2段目に図示左に特異な縄文を施文、詳細不明。縄文帯は下端より幅1cm、1.5cm、1.5cm、2.5cm、その上は多段ループ帯。20は底径7.3cm(現存1/2)。0段3条RL。下端から上に1.3cmの縄文帯、その上は多段ループ帯。底面の角に沿って施文後、中央に施文。21は底径8.7～9.7cmで楕円形である。0段3条の二本と0段2条の一本を付加し、6区分(下方に図示)の横羽状縄文。22～70は住居覆土層から出土した破片で、型式分類は前後する。22は微隆起に沈線による野島式、裏面に

貝殻条痕を施す。23～26は口縁部直下に太い隆帯が巡る。23は波状口縁で、隆帯上に半截竹管工具を斜めに押し口唇部に刻み、口縁部に半截竹管で波状文を施文。24は風化が著しく、隆帯上に斜めに押捺した工具は半截竹管の可能性が高い。25の隆帯に大きく抉るように押捺する、工具は不明。26の口唇部は水平で角張り、隆帯上の押捺はサルボウなど貝殻の背を横位に押捺したものか。口唇部直下に半截竹管の平行線が巡り、隆帯より上部に半截竹管の平行線による波状文を施文。27は二股波状口縁で、半截竹管による4本の平行線に刻み。貼り付けた正円筒形貼付の上から竹管を押捺する。28は口唇部に半円形突起が付き、半截竹管の平行沈線とコンパス文を、小円形貼付文は3個連なって胴部との区画帯とし、胴部はLR単節斜縄文。29は口唇部の山形小突起が口唇部裏面にまで廻して貼付。半截竹管の平行沈線を廻らし、上部に鋭利な工具で斜線刻みを施す。小円形貼付文を付け、幅8mmのコンパス文を施文。地文はLR単節に細いLRを付加した異節斜縄文。30は口唇部に被せるように蒲鉾状の突起を付け、等分に切り目を入れる。その上には櫛歯状工具で刺突を施す。コンパス文は櫛歯状工具で施文した関山Ⅱ式後半。31～38は小円形貼付文を貼付。31は風化が激しい山形波状の口縁に、半截竹管による平行沈線で半円形の曲線を描く。32は口唇部に山形小突起と箱状小突起を被せ、各突起上に鋭利な工具で蛇腹状の文様を丁寧に付ける。33・34は半截竹管で4本の集合沈線。35は半截竹管で蒲鉾状の3本の集合沈線を平行に引く。36は半截竹管で、2本の平行沈線で連結半円文を描き、著しく多い円形小貼付文は、貼付に規則性はない。37は半截竹管の平行沈線で菱形構成をとる。38は片口土器の片口下部(受部)、口唇部に小円形貼付文を二重に巡らせ、下に半截竹管の刺突を押し引く。39～41は関山Ⅰ式。39は半截竹管で平行線に刻みを付ける。40は0段3条RLと0段3条LRによる先端ループの羽状縄文。41は幅6mmの半截竹管でコンパス文。42・43・46・48・50は、前期末の土器。胎土に石英等、2～3mmの小砂利を多量に含む共通性がある。42は三角の突起が口唇部に付き、括れが深く口縁部は大きく外湾。口縁部には単節LRと無節RLを結束して羽状縄文を施文。括れ部に結束「S」字状文を二重に施文。43は括れ部上半は無節Lr、下半には無節RLを施文。42・43は胎土に石英の小砂利を多量に含む。46は

結束羽状縄文。50は器面に浅く単節LRや無節Lrを施文。48は胴部下半から底部で、器面に浅く無節Lrを横回転で施文。44・51・53は関山式。44は胴下半部で、幅狭の羽状縄文。図示上より0段3条RLとLR羽状縄文帯、2段目幅2cmの0段3条LR、3段目幅1.5cmの0段3条RLと単節LR羽状縄文帯、4段目幅3cmの0段3条LR、5段目幅2.3cmの単節LRと0段3条RL羽状縄文、6段目幅2cmの0段3条RL、7段目幅2cmの単節LR縄文帯。51は0段3条LRの多段ループ文帯。53は底部片、下端より幅1cmの単節LR縄文帯、上は幅2.5cmの先端ループLR縄文帯、その上は0段3条RL縄文帯。45・47・49・52・54～58は黒浜式土器。45は図下方に追加工形の接合痕有り。単節のRLとLRを多用。下半の先行縄文に重ねた羽状縄文帯がある。47は正反の合による異節斜縄文。49は単節LRに細いLrを付加。52は貝殻背圧痕文で、早期末か黒浜式。54は頸部に二条の隆帯を貼り付け、上部隆帯の下方から円形刺突文を施す。55も括れ部に付けた隆帯が図示上部に付く。56は単節RLと無節Lrによる菱形縄文。57・58は小形で器厚が薄く、胎土に繊維が混入、57は白い砂粒が多量に混じる。内面は強く研磨され、色調黒褐色で、縄文を施文した痕跡がある。58は刺し切り状沈線。59は色調黄褐色、繊維の混入無し。器厚が3～5mmと薄く、無文で器面は凹凸有り。60・61は諸磯a式。胎土に2～3mmの石英等を多く含む。60は幅3mmの半截竹管で平行沈線を引く。61は櫛歯状工具で集合条線を横位に引く。62～65・68・69は十三菩提式等の前期末。色調茶褐色で結節浮文。63は口縁部で、粘土紐が太いため半截竹管の押圧による粘土のはみ出し、地文に浅い縦に引いた条線痕が有り、やや古い。62・64・68は、粘土紐も細く浮線の半截竹管の刻み押圧による粘土のはみ出しはない。68は外湾する口縁部の口唇部先端を「く」の字状に直立させ、直下に細い結節浮線文を貼り付ける。下には幅7mmの粘土紐を貼り付け円形工具で押圧。69は無節Lrの施文後に粘土紐を貼り付け、丸い工具を1cm間隔で押圧。66・67は幅1cmの折り返し口縁で、胎土の砂粒は精錬され非常に細かい、黒褐色。66は単節RLとLRの結束による羽状縄文。67は非常に細い無節Lrを施文。70は関山式ないし黒浜式土器の破片を利用した土製円盤、風化が激しい。(笹森健一)

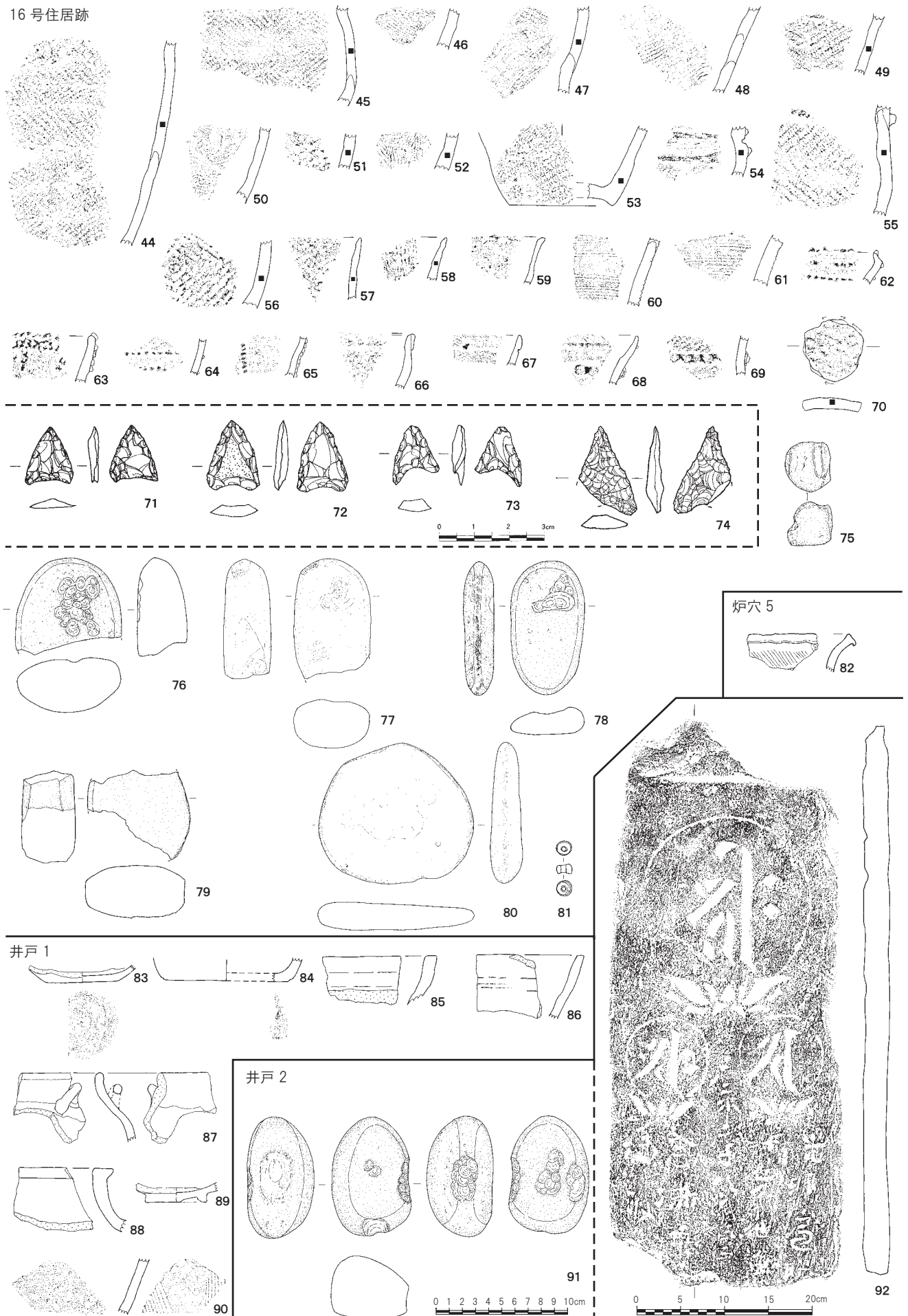


第 39 図 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡出土遺物①(1/4)



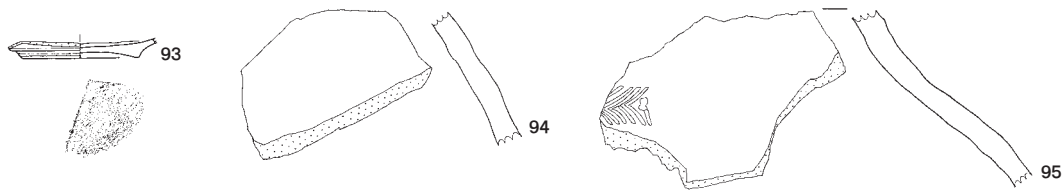
第40図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡出土遺物②(1/4)

16 号住居跡

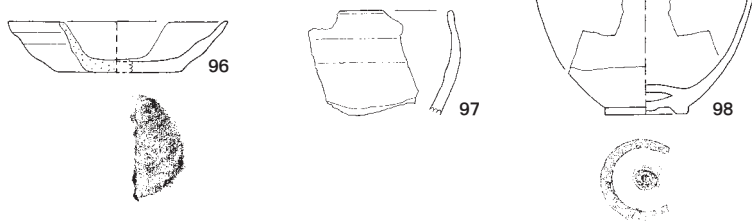


第 41 図 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡③・炉穴・井戸出土遺物(1/4・2/3・1/6)

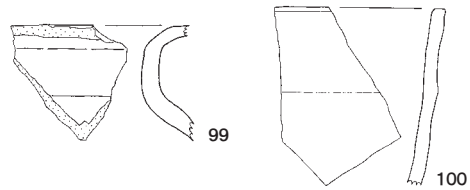
井戸4



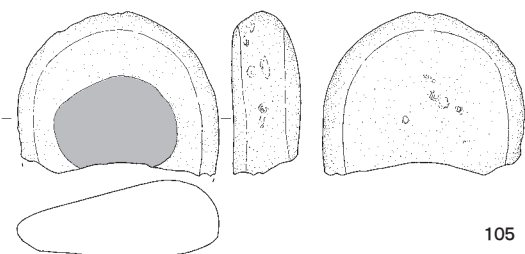
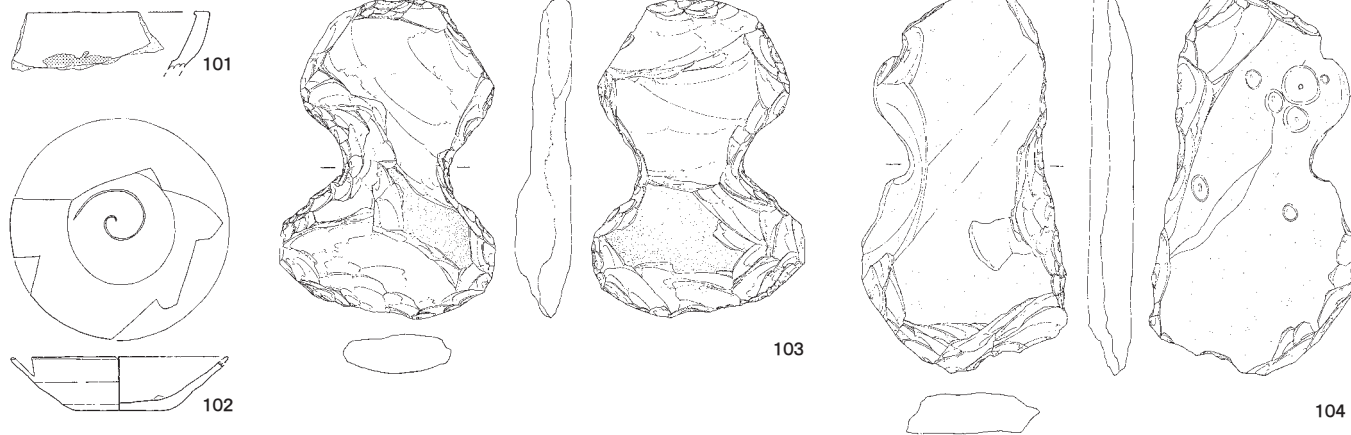
井戸5



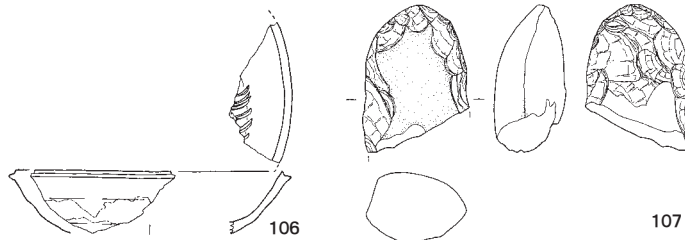
土坑6



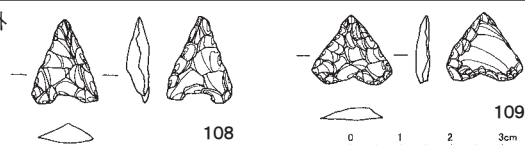
溝1



溝6

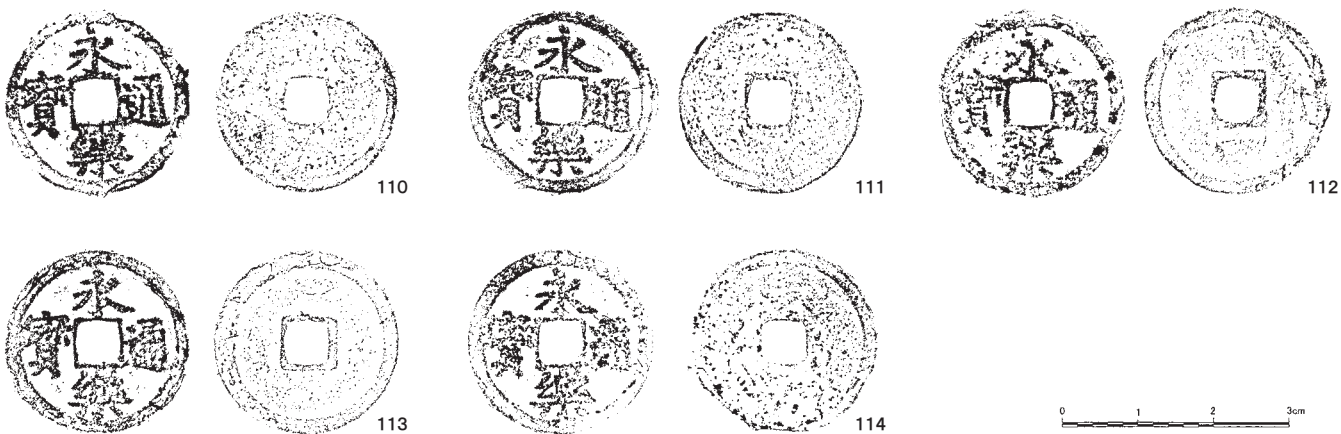


遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

0 1 2 3cm



0 1 2 3cm

第42図 長宮遺跡第44地点井戸・土坑・溝・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)

ま と め

2013（平成 25）年度の埋蔵文化財発掘調査は 51 件の試掘調査のうち、11 件の本発掘調査を実施した。内訳は個人住宅 3 件、公共事業 2 件、民間開発 6 件である。民間開発に伴う本発掘調査のうち、3 件を本書に掲載した。開発種別の内訳は老人介護福祉施設建設、宅地造成、分譲住宅建設に伴うものである。本書に掲載した報告のうち、遺跡別に主な遺構と遺物について、問題点や今後の課題についてみてみたい。

（1）鶴ヶ岡外第 6 地点

本遺跡では、試掘・本調査合わせて 6 地点の調査を実施している。これまでの調査で、旧石器時代～縄文時代早期が主体の遺跡と考えられていた。

しかし、今回の調査で 11 世紀前半～12 世紀後半の木炭窯 1 基を検出し、ふじみ野市内で確認された木炭窯は 18 基となった。東台遺跡第 15 地点 1 基（9 世紀前半）、東台遺跡第 18 地点 9 基（8 世紀～9 世紀）、西台遺跡第 3 地点 1 基（古代か？）、神明後遺跡第 41 地点 2 基（14 世紀前半～15 世紀前半）、浄禅寺跡遺跡第 30 地点 1 基（15 世紀前半）、本村遺跡第 86 地点 1 基（10 世紀）、本村遺跡第 111 地点 1 基（15 世紀前半）、大井氏館跡遺跡第 9 地点 1 基（近代以降）、鶴ヶ岡外遺跡第 6 地点 1 基である。

これまでは市域の南部にある砂川、浄禅寺川、富士見さかい川沿いの遺跡で主に検出されていた。これは、東台遺跡第 18 地点の製鉄遺跡（8 世紀～9 世紀）、本村遺跡や神明後遺跡の古代～中世の集落跡、浄禅寺跡遺跡の旧寺院跡との関連が深いためと考えられる。

市内の他の河川周辺でも、木炭窯の存在が指摘されていたが、北部の鶴ヶ岡外遺跡で発見されたことにより、市内全域にこうした木炭窯が存在する可能性が高くなった。鶴ヶ岡外遺跡の木炭窯は、古代から近世まで、周辺地域の生業や地域史を研究する上で、貴重な資料である。

（2）ハケ遺跡第 7 地点

今回の調査で、縄文時代中期 3 軒と、8～9 世紀住居跡 4 軒の他、縄文時代や古代～近世にかけての遺構や遺物が多数確認された。しかし、依然として縄文時代～古代の集落跡についての全容を知るには、新河岸川の崖線付近の調査が不足している。

縄文時代中期の集落跡は、埼玉県道 56 号線さいたまふじみ野所沢線の、東側に平行するように位置し、

北側では台地の等高線に沿うように東側に広がる。中期末～後期の加曽利 B 式や堀ノ内式期では、舌状に張り出す中央部から東側、標高 14～15 m 付近に集中する。縄文時代の集落については、市内の中～大規模集落よりも、苗間東久保遺跡や神明後遺跡などの小～中規模な遺跡との比較研究も必要であろう。また、現在の調査状況では、8～10 世紀の住居跡も、縄文時代の集落と重なる点は興味深い。

さらに、本地点整理作業中の 2014 年 7～8 月、第 16 地点の試掘及び本調査で、6 世紀中～後半の古墳 1 基（周溝）から、多数の人物埴輪と円筒埴輪が出土した。詳細は本報告を待たねばならないが、周辺部では 6 世紀代の住居跡 1 軒を検出しており、今後の検討課題であるとともに、周辺部の調査にも期待したい。

（3）長宮遺跡第 44 地点

長宮遺跡では近年、縄文時代前期関山期の住居跡の検出が相次いでいる。2011 年以降は 7 軒を確認し、うち 6 軒を検出した。住居跡の時期は関山Ⅱ式期が多く、J16 号住居跡も当該期に属する。J16 号住居跡の炉について、若干の補足をしてまとめに代えたい。

関山期の住居内の炉には、礫や石器、土器等を再利用して埋設、又は配置する例が多くみられる。隣市の富士見市打越遺跡は関山期の住居跡 56 軒が確認され、武蔵野台地北部の拠点集落である。打越遺跡 14 号住居址と 224 号住居址でも、炉内に礫と土器片を埋設しており、J16 号住居跡も同類と言える。

J16 号住居跡炉内埋設土器は第 39 図 4・6・8 と第 41 図 44 で、大型土器片を横位に 6 重に埋設する。埋設土器は、関山式の古相のものと新相のものがみられる。第 39 図 4 は関山式Ⅰ式、同図 6・8 と第 41 図 44 は関山式Ⅱ式とみられ、時間差が生じる。本住居跡の時期は、柱穴の配置から住居拡張の可能性があり、炉内埋設土器の時期と考え併せ、関山式Ⅱ式の古相段階としたい。

最後に、各地権者・開発関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡炉遺物出土状況



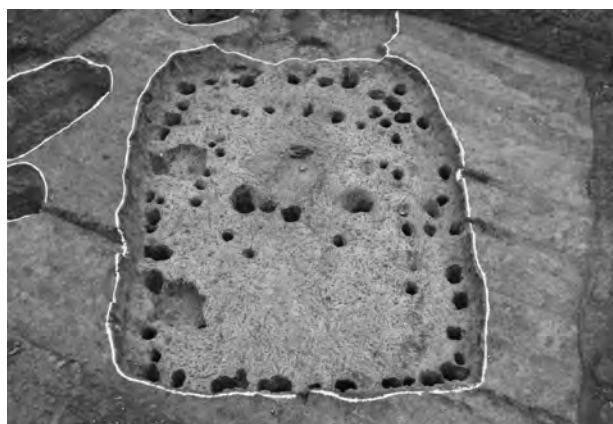
長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡炉遺物出土状況



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡炉遺物出土状況



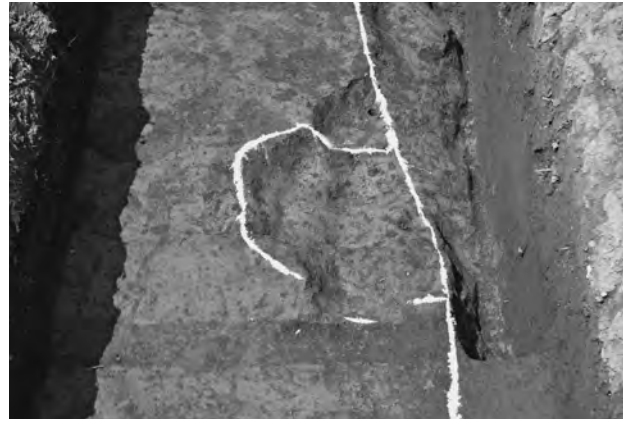
長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡



長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡



長宮遺跡第 44 地点炉穴 1、土坑 10



長宮遺跡第 44 地点炉穴 5



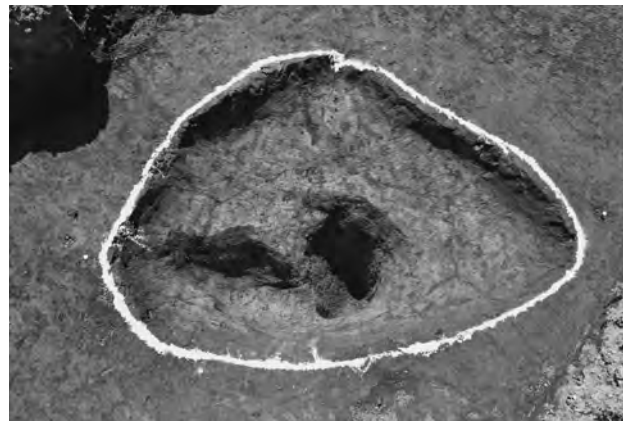
長宮遺跡第 44 地点炉穴 2～4



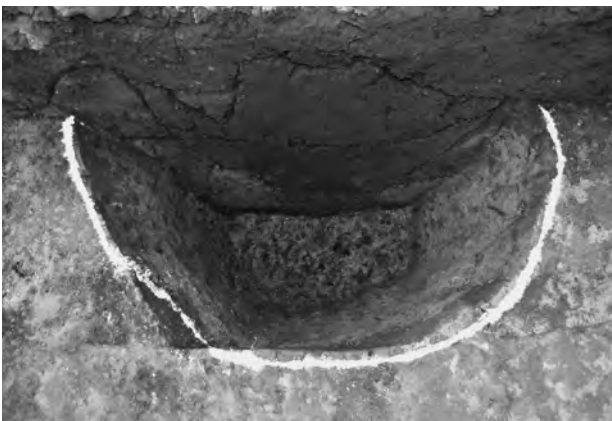
長宮遺跡第 44 地点炉穴 6



長宮遺跡第 44 地点落とし穴・土坑 8



長宮遺跡第 44 地点土坑 2



長宮遺跡第 44 地点土坑 3



長宮遺跡第 44 地点土坑 4



長宮遺跡第 44 地点土坑 6



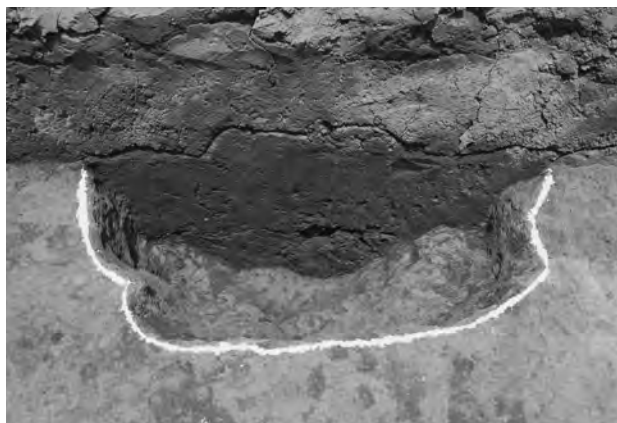
長宮遺跡第 44 地点土坑 7



長宮遺跡第 44 地点土坑 8



長宮遺跡第 44 地点土坑 9



長宮遺跡第 44 地点土坑 11



長宮遺跡第 44 地点土坑 13



長宮遺跡第 44 地点土坑 18



長宮遺跡第 44 地点土坑 19



長宮遺跡第 44 地点井戸 1



長宮遺跡第 44 地点井戸 2・3、溝 4



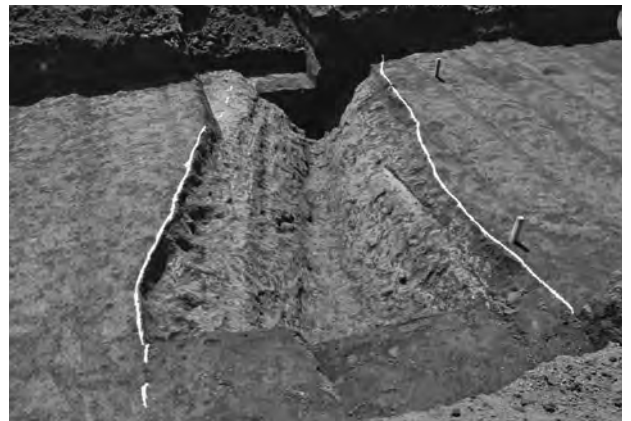
長宮遺跡第 44 地点井戸 2・3、溝 4



長宮遺跡第 44 地点井戸 4



長宮遺跡第 44 地点井戸 5



長宮遺跡第 44 地点溝 1



長宮遺跡第 44 地点トレンチ 1・2 の溝 2・3



長宮遺跡第 44 地点トレンチ 8 の溝 2・3



長宮遺跡第 44 地点溝 7～9



長宮遺跡第 44 地点ピット 2



長宮遺跡第 44 地点トレンチ 10(J17 号住居跡)



長宮遺跡第 44 地点トレンチ 9(J17 号住居跡)



長宮遺跡第 44 地点トレンチ 10(J17 号住居跡)



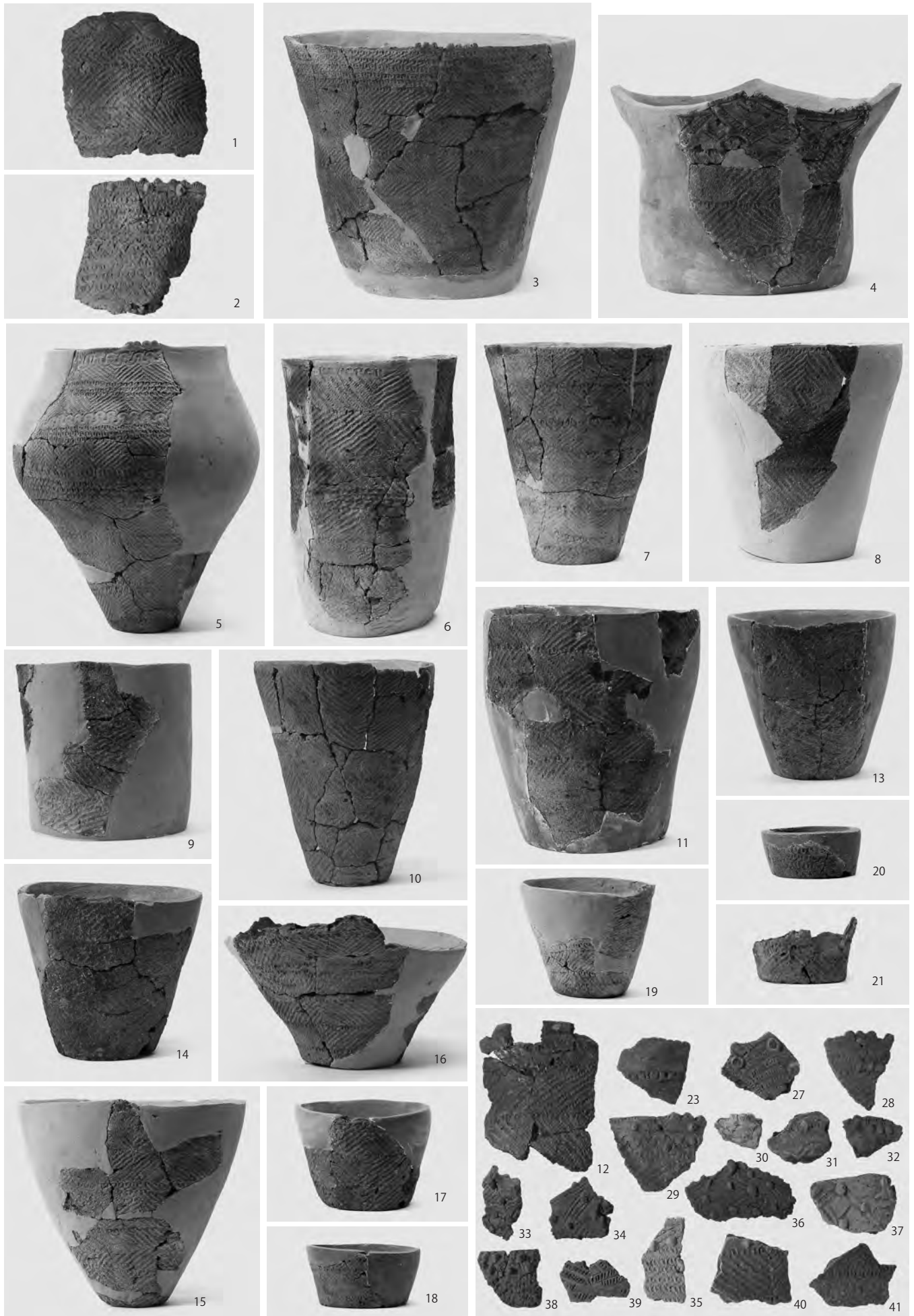
長宮遺跡第 44 地点試掘調査表土除去



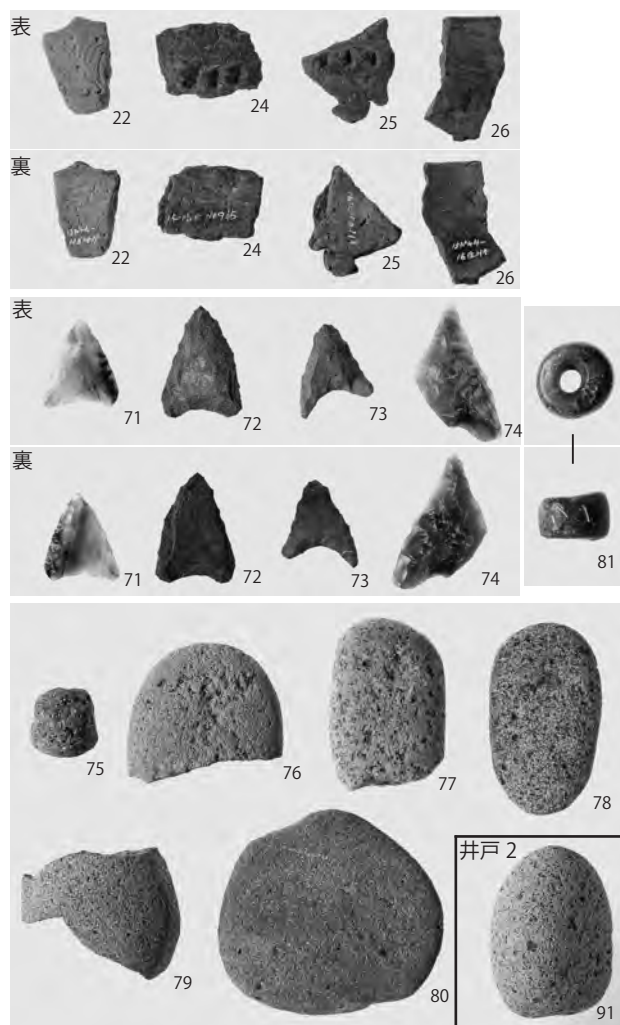
長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡調査風景



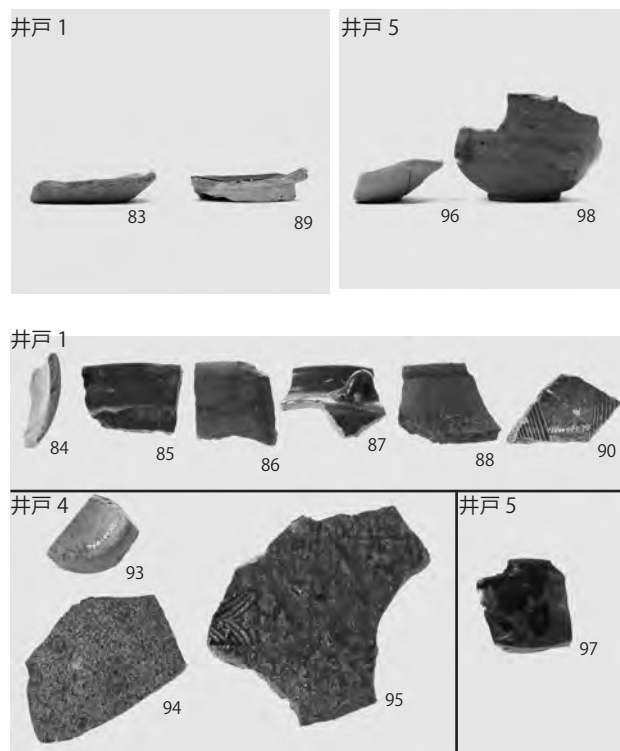
長宮遺跡第 44 地点全景



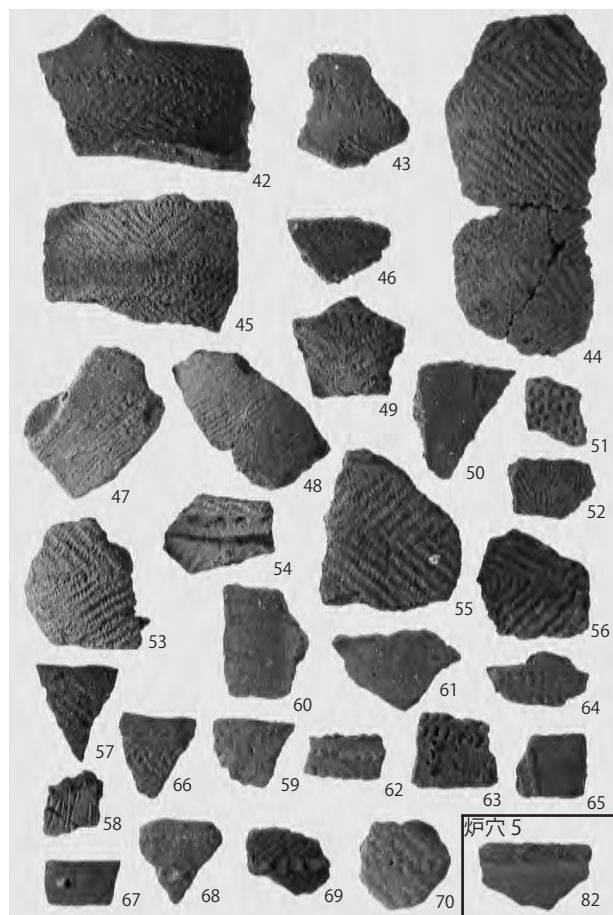
長宮遺跡第 44 地点 16 号住居跡出土遺物 No.1 ~ No.21・23・27 ~ 41



J16 号住居跡出土遺物 No.22 ~ 80、井戸 2 出土遺物 No.91



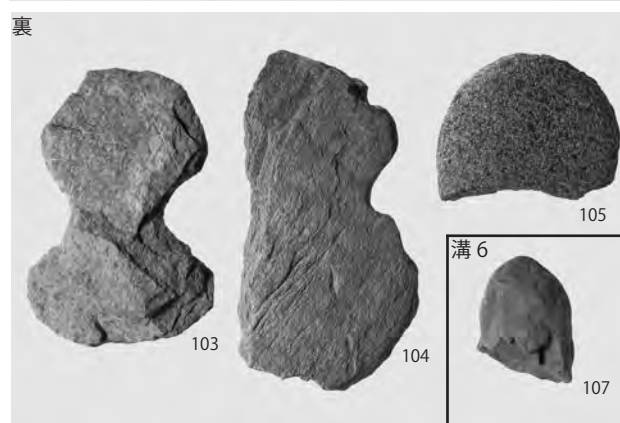
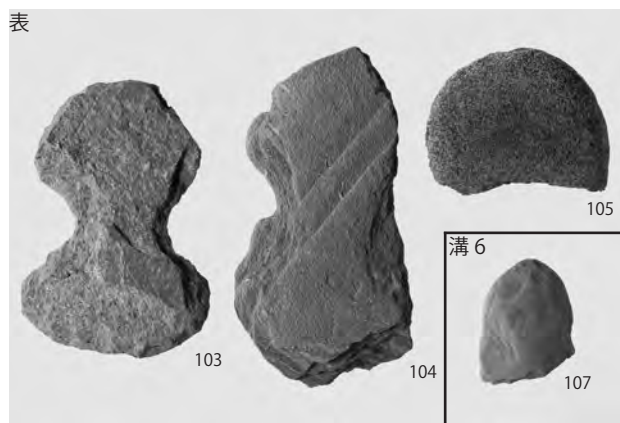
長宮遺跡第 44 地点井戸 1・4・5 出土遺物



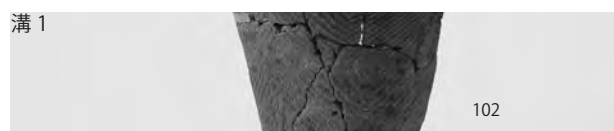
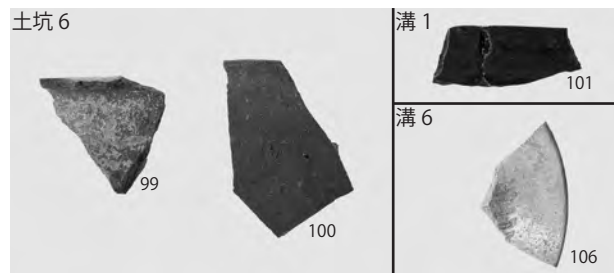
J16 号住居跡出土遺物 No.42 ~ 70、炉穴 5 出土遺物 No.82



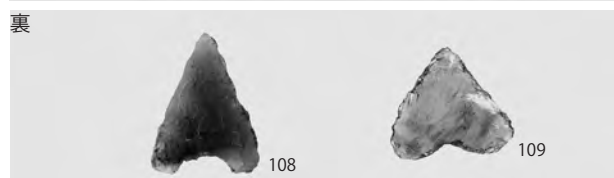
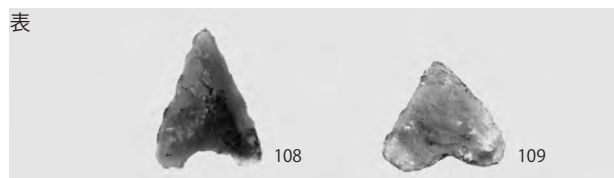
長宮遺跡第 44 地点井戸 2 出土遺物 No.92



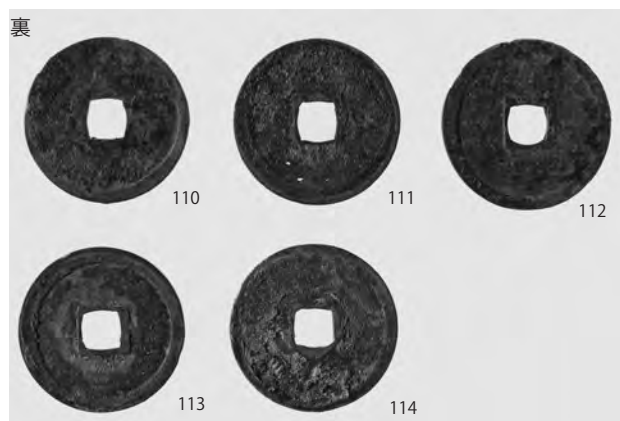
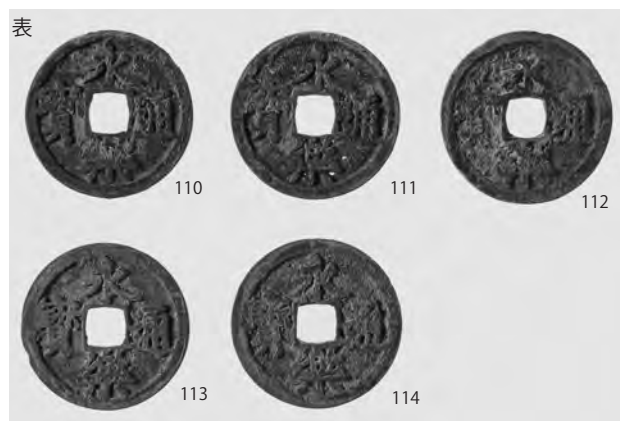
溝 1 出土遺物 No.103 ~ 105、溝 6 出土遺物 No.107



土坑 6 出土遺物 No.99・100、溝 1 出土遺物 No.101、溝 6 出土遺物 No.106



長宮遺跡第 44 地点遺構外出土遺物 No.108・109



長宮遺跡第 44 地点遺構外出土遺物 No.110 ~ 114



整理作業風景